

327

792

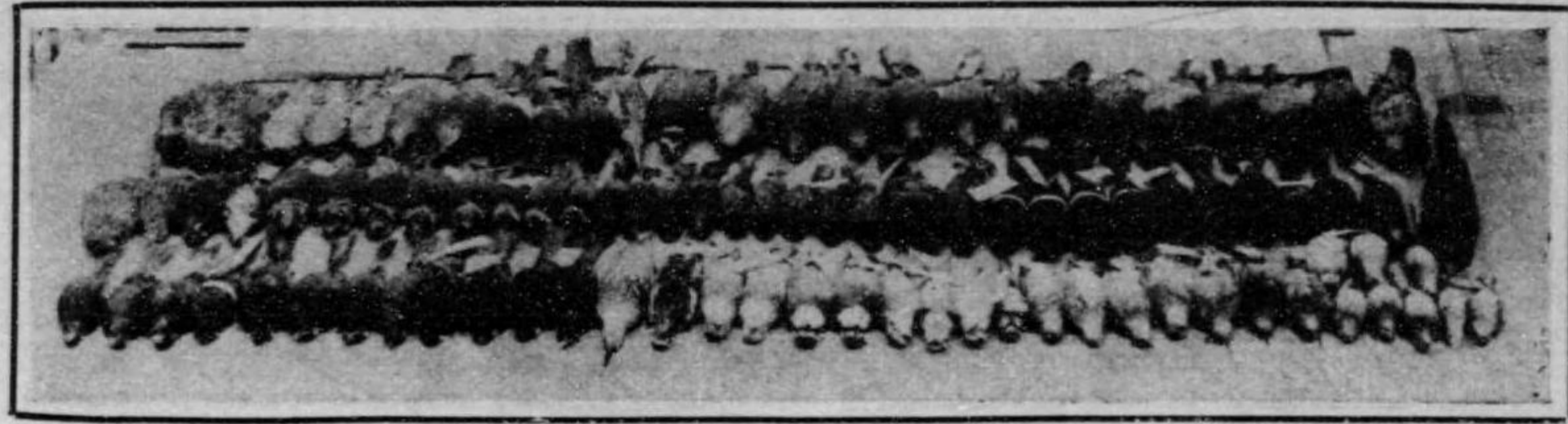
臺灣島の鳥界

黒田長禮著



始





理學士黑田長禮著

臺灣島の鳥界

(日本鳥學會臨時  
刊行物第六編)

(附菊地米太郎述 臺灣産鳥類の習性)

日本鳥學會



327-792

### 臺灣島の鳥界目次

一、神戸港出帆以來歸港迄の間にて見たる鳥類……………一頁

(a) 神戸港、基隆間にて見たる鳥類……………一

(b) 臺灣島内部にて見たる鳥類……………三

(c) 基隆、神戸間にて見たる鳥類……………一四

二、臺灣鳥類の採集に就て……………一五

(a) 採集鳥類目録……………一七

(b) ミカドキジに就て……………三二

三、臺北、臺南兩博物館所藏鳥類……………三三

四、臺灣島より新に報告せらるる鳥類……………三六

五、余の見たる臺灣鳥類の習性……………三六

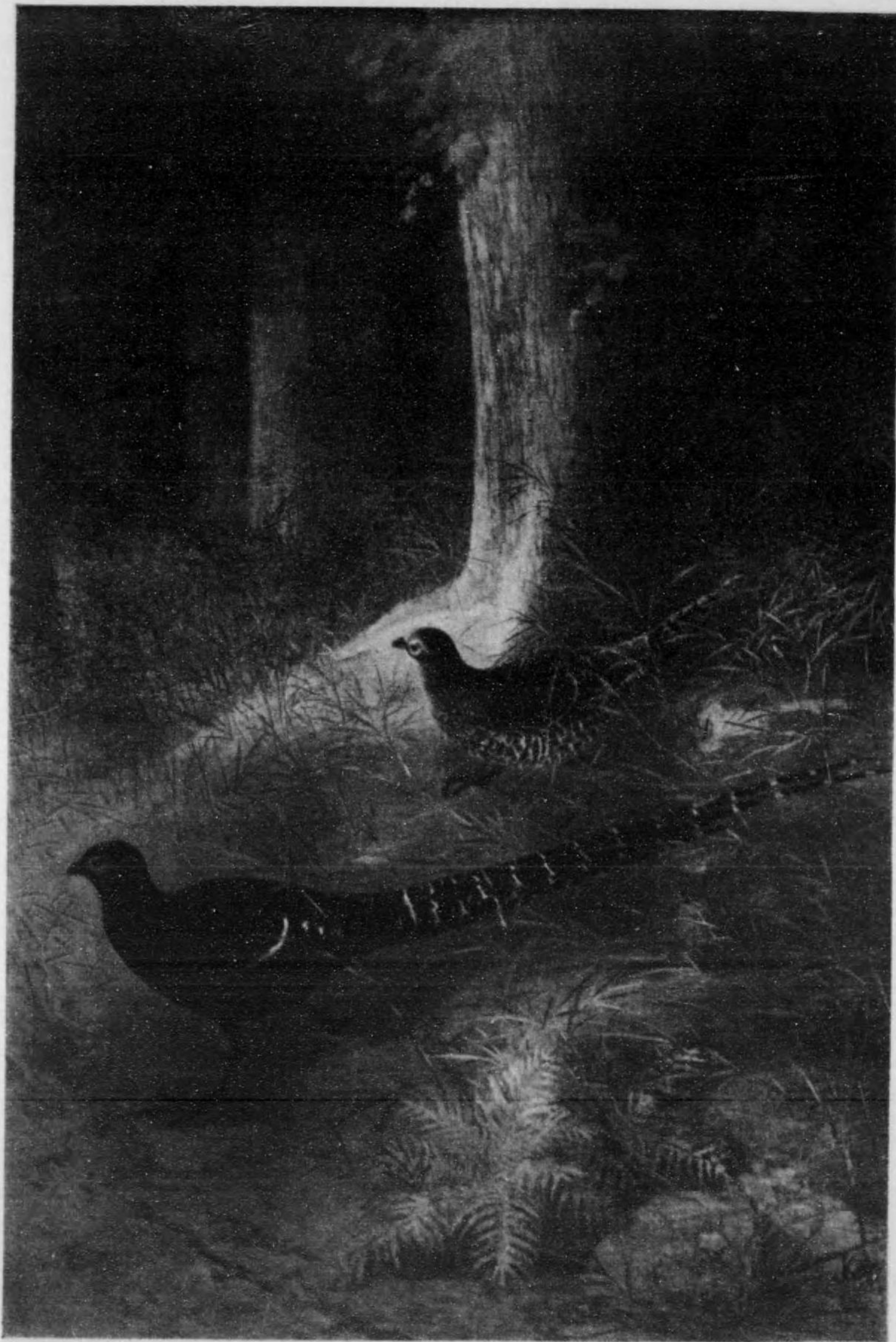
(a) 繁殖に關して……………四二

(b) 分布に關して……………四二

六、採集鳥類の體重比較……………四五

附録 臺灣産鳥類ノ習性……………四九

大正  
5. 11. 1  
納交



(八分一貫物大)

雄雌じきどかみ

*Calophasis mikado* Grant, ♂ ♀

### 自序

予は本年四月十日東京出發翌十一日神戸港出帆の備後丸に投乗し海路門司を経て遙に臺灣島に向へり。其重なる目的は今回臺北にて開かれたる始政二十年紀念臺灣勸業共進會見物を機とし臺北臺南兩博物館所藏鳥類標本の調査並びに各地方に於て採集を試むるにありたり。余の臺灣島滞在日数は四十一日間にして往復五十一日を要し而して五月廿五日基隆出帆の亞米利加丸にて歸路に就き卅日に歸京したり。左に神戸港出帆以來の鳥類に關する記事を掲げ聊か所思を記して之れを公にせん。す。

大正五年七月

黒田長禮識



行發月九年五正大 編六第物行刊時臨會學鳥本日

# 臺灣島の鳥界

理學士 黒田 長 禮述

## 一、神戸港出帆以來歸港迄の間にて見たる鳥類

### a 神戸港・基隆間にて見たる鳥類

四月十一日(晴) 午前十時三十分ランチにて備後丸に達し之れに投乗、正午出帆後間もなく左の鳥類  
を見た。

トビ 一羽飛行せるもの

セグロカモメ? 三四羽を見る

ユリカモメ 甚だ多く或るものは明に頭部黒色となりたり即ち生殖羽を示せり

四月十二日(晴) 午前中周防灘を航行中左の鳥類に出會す

ウミウ? 一羽海面を飛び行くあり

ヒグロカモメ 可なり多く船上に來たるものあり二年兒にて幼羽のものあり又成鳥もあり

ウミネコ 大群をなす猫の如き叫声を聞く

午前八時三十分門司に着せり、余は上陸して散歩す當地附近の陸上ニ海上ニにて見たるもの。

ウミネコ 餘り多からず

ヒヨドリ 少し

ウグヒス 一羽の聲を聞く

ツバメ 少し

メジロ 一羽の聲を聞く

スバメ 少し

ホ、ジロ 一羽の聲を聞く

アヲジ 同 上

四月十三日(曇後晴)九州地を離れ凡そ二百哩位の海上にて次の鳥類を見る

ゴキサギ 二羽海上を飛びつゝあり

サ、ゴキ? 一羽飛びつゝあり

シラサバイ 一羽船に來り止る、かゝる小禽を海上に見るは珍らし恐らく渡りの途ならん

其後に至りて

キセキレイ 一羽來る

ツバメ 可なり來る

四月十四日(雨、後止む)琉球沖にて次の鳥類船に來る。

キセキレイ 二羽(雌雄ならん)來る

ツグミの類 一羽來る但し余は見ず

ノゴマ? 雌一羽來り船の甲板を飛び終に何づれへか去る

ウグヒス科の鳥類一羽來る屬種名不明

ツバメ 數羽來る。

### b 臺灣内にて見たる鳥類

四月十五日(晴)我が乗る備後丸は午前六時無事基隆港着、岩壁に横付けとなる。本日臺北に至り投ず。基隆・臺北間にて見たる鳥類左の如し。以下内地に産せざる鳥類には學名を附す。但し初出のみ、他は省略。

シラサギ、アマサギ可なり多し共に混群す。基隆港にても見る。

ヒメトンビ (*Mitrus ater gorinda* Sykes) 基隆港にて一羽を見る。

カハセミ 電線に一羽止れるを見る。

ツバメ? 少し。

オウチウ(烏秋) (*Bucconga atra* (Horn)) 基隆より列車に乗り一番早く目に付く種類にして基隆・臺北間にて電線に多く止り又は田に降りて食を求めつゝあるもの又は竹に止れるもあり。見たる數實に一時間位の間にて二十七羽に達す。

タイワンスバメ (*Passer montanus taiwanensis* Hart) 臺灣に普通の雀にして内地のスバメより嘴太し、基隆・臺北間には少し。

臺北市内の鳥類

シロガシラ(白頭) (*Ptilinopus sinensis formosae* Hart) 臺灣特有の普通なる鳥類にして可なりに多く榕樹の實を食せん爲め庭園に來るあり電線に止るあり、鳴聲佳なり。

ヒメ、ジロ (*Zosterops palpeosa simplex* Sw.) 可なり多く、シロガシラと共に榕樹に來る。但し實を食ふに非らず昆蟲を探めん爲めならん。

タイワンスズメ可なり多し。

四月十六日(晴) 本日用事ありて臺北より基隆に至る此鐵道沿線にて見たるもの

シラサギ、アマサギかなり多し主として錫口驛附近なり。こは本驛を去る凡そ一里の地點に鷺山シラサギ稱する小山あり鷺類の繁殖地なるによる。(菊地米太郎氏調査)

シロガシラ 一羽を見る。

オホコシアカツバメ (*Hirundo daurica striolata* (T.&S.)) 一羽を水邊脚附近にて見る明に腰褐赤色を呈す。

タカサゴモズ (*Lanius schach* L.) 一羽電線に止れるものを七堵驛附近にて見る、尾長し。

オウチウ 十七羽を見る

タイワンスズメ 少し。

四月十七、十八日兩日特記すべき事項なし。

四月十九日(晴) 午後三時(8:30 P.M.) 共進會第二會場内にて見たる野生鳥類は

ツメナガセキレイ 一羽成鳥にて黄色多きものを見る。

マミハウチワドリ (*Prinia titoria a formos* Hartert) 一羽低き木に止り佳き聲にて鳴きつゝあり。

第二會場内飼養鳥類にて臺灣産のものは

アマサギ、オホヨシゴキ(臺灣にて是迄獲られざる種類)、タイワンキジ (*Plasianus formosanus* Ell.)、テッケイ(竹鷄) (*Bambusaecia sonorator* Gould) セグロアジサシ、バン、セイケイ等なり。

四月二十日より二十四日迄特記すべき事なし。

四月二十五日(曇り、基隆にて雨) 午後二時 (2:00 P.M.) 本日又臺北より基隆に赴く見たるもの

シラサギ、アマサギ前同様に見たり。

ヒメトンビ一羽(臺北)、一羽(臺北・基隆間)、二羽(基隆)を見る。

オウチウ 十一羽を見る。

タイワンスズメ 少し。

四月二十六日 記事なし。

四月二十七日(晴)、午後二時 (2:00 P.M.) (臺中にて)、本日臺北を出發して南部に向ふ。先づ此日は臺中に投宿せり。臺北・臺

中間にて見たる鳥類は

シロガシラ 一羽、十六汾庄驛海拔(一二三〇呎)にて見たり。

オウチウ 三十四羽を見た。

タカサゴモズ 三羽、桃園驛にて見る。

臺中市街にて見たるもの

シロガシラ 比較的少きが如し。

クロヒヨドリ(紅嘴鳥秋) (*Hypsipetes nigerrimus* Gould) 數羽臺中公園内にて見る。

マミハウチワドリ 數羽を見る。

オホコシアカツバメ 多し。

カサ、ギ 一羽臺中公園内にて見る。

ヒメ、ジロ 可なり多し。

タイワンスズメ 非常に多し、當臺中廳管内は米の産額大なり。故に今回余の赴きたる地方中、臺中最も本亞種を多く見た

り。

四月二十八日(半晴)集々にて午後二時<sup>8.00</sup>。本日臺中を發し彰化・南投を経て集々街に赴く。臺中・彰化間にて見たるもの

は  
シラサギ、アマサギ多し、常にアマサギの方多しこはシラサギを以前多く捕獲したる爲めなり云ふ。  
ヒメトンビ 三羽を見る。

オウチウ 十三羽を見る、

彰化・南投間の輕便鐵道沿線にて見たるものは

アラサギ 一羽を河原にて見る。

イツヒヨドリ 數羽を河原及び畑にて見る、本種は内地にては殆んど磯邊に限らる。

四月二十九日(晴、夕立あり)、採集鳥類の外特記なし、本日は集々を發し臺車(本島人即ち支那人二名にて手押しするトロツコ)にて濁水溪に沿ひ臺灣耶馬溪を通りて埔里社に着す。當地は本線より凡そ十六里程離れたる山地の底の如き處なり。石橋南投廳長より數種の鳥類を寄贈せられたり。當地方は鳥類豊富にして採集には好適地の一なり。

四月三十日(晴)霧社にて午後五時<sup>5.00</sup>。本日は埔里社を發し臺車にて四里、眉溪に著しそれより橋(支那籠)に乗りて一里半の山道を通り八十七間の釣橋を経て生蕃地なる霧社或はバーラン社に着し一泊す。當地は海拔三三七五呎に達す。非常に涼しく臺灣に居る心地せず。本日も採集を行ひたるがその外特記すべき事少く只埔里社にて旅館庭内の小松にシマキンバラ(Mania topala Sw.)來り巢を営みつゝあるを見出す、巢は非常に大形にして入口は横にあり主として青草にて造らる、雌雄にて草を運び又雌は時々巢内に残りて内部を造るが如し。雄のみ運ぶ時一七秒乃至一分間の間を置きては必ず青草の鳥體よりも餘程長きものを銜へ來る。此巢は凡そ高さ二間の小松の地上より六尺五寸の高さに營まれたるものにして旅館の座敷より僅に一

二尺を離れたるのみ。如何に本種が人を恐れざるかを知るべし。無論巢内には未だ卵なかりき。

五月一日(晴)午前七時霧社にて<sup>8.00</sup>。午後三時埔里社にて<sup>8.00</sup>。本日は蕃童を教育する霧社公學校及び霧社蕃社(アタイヤル族)を視察し眉溪を経て埔里社に歸着す。採集は行ひたるも特別に記す程のこゝなし。

五月二日(晴)午後六時水社にて<sup>7.00</sup>。本日は埔里社を發し魚池を経て臺灣箱根とも稱すべき日月潭(日月潭三月潭あり相連る)ニ云ふ湖に着し一行獨木舟に分乘し視察の後水社の新設せる旅館に投ず本日も採集を行ひたるもその他特記すべき事なし。

五月三日(晴)本日は日潭にボート及び獨木舟を浮べて採集を行ひ對岸なる化蕃々社(ツォウ族)を訪ひ舞踏其他を観覽したり。

五月四日(晴)午後二時集々にて<sup>8.00</sup>。本日は水社を發し集々を経て滿仔に着し輕便鐵道に乗換へ二八水驛に着しこれより本線に移りて嘉義に到着す。本日も採集を行ひたるが其他此地方にて見たる鳥類は左の如し。

シラサギ、アマサギ 集々附近に可なり多し。

第 一 圖



南投水社日月潭湖上の採集一行



タイワンカスヒドリ (*Coprimachus monicola* Fr.) 二羽午後五時頃浦仔附近の河原にて始めて見る。共に低く飛びつゝあり。

オウチウ 十羽、二八水・嘉義間にて見る。

五月五日(晴) 午後二時半嘉義にて見。本日は嘉義發輕便鐵道にて九哩を去る蒜頭<sup>サシノ</sup>に着し明治製糖會社の農場及び製糖の状況を視察したりしが本日途中にて見たる鳥類左の如し。

タイワンヒバリ (*Alauda guttula sula* Sw.) 多し。

ツメナガセキレイ 多し。

シロガシラ 二羽を見る。

イソヒヨドリ 畑にて一羽を見る。

オウチウ 三羽を見る。

ツバメ? 少し。

シマキンバラ 多し。

カアレン(加令) (*Ethopyga cristatellus formosanus Hartert*) 二羽飛びつゝあり。

カサ、ギ、畑に降れるもの三羽を見る。

本日嘉義市内にて見たるもの

シロガシラ 枇杷の實を食すもの多し。

クロヒヨドリ 少し。

マミハウチワドリ 少し。

オウチウ 餘り多からず。

ヒメ、ジロ 多し。

タイワンスマメ 多し。

五月六日(晴) 本日は嘉義を出發して臺南を経て打狗に着す。此間にて見たるものは

シラサギ、アマサギ、舊城驛附近にて見たるもの少し。

ヒメトンビ 三羽を見る。

トウネンかイソシギか何れか不明なりしも車路崙驛附近の沼池に可なり多し。

ベニバト(土名コバト) 二羽灣裡驛にて見る。

キンバト 一羽同 上

オウチウ 四十三羽を見たり。嘉義・水堀頭間にて十七分間に見たるもの二十羽に達せり。

タカサゴモズ 一羽を見る。

カサ、ギ 三羽を見る。

打狗にて見たる鳥類は

シロガシラ 多し。センダンの木に營巢せるも未だ卵なし。

ヒメマルハシ (*Pomatorhinus musicus* Sw.) の聲を聞く非常に佳き音なり。多し。

ハウチワドリ (*Suga crinigera* Hodgs.) 少し。

マミハウチワドリ 多し。

ツバメ? 少し。

カアレン 數羽見るも餘り多からず。

カノコバト (*Turtur chinensis* (Scop.)) 可なり多し。

五月七日(晴) 午前十時阿緜にて80°F。午後二時打狗にて80°F。あり。本日は打狗より阿緜に至る途中稻の穂已に生じいたり。本月末には苺り取る由、當地は一年に二回収獲あり云ふ。淡水溪の鐵橋を渡る臺灣第一の長さにして五百間あり云ふ。午後よりランチにて打狗築港内外を視察す。

打狗、阿緜間にて見たるものは

シラサギ、アマサギ 三塊厝驛附近に多し。

アササギ 一羽飛行せるものを見る。

ヒメトンビ 少し。

ベニバト 可なり多し。

コアジサシ? 五六羽を打狗灣外の外洋にて見る。

カハセミ 一羽電線に止まれるものを見る。

マミハウチワドリ 一三羽を見る。

イソヒヨドリ 少し。

シロガシラ 阿緜の市街にて數羽を見る。

オウチウ 六羽を見る。

タカサゴモズ 一羽を見る。

オホコシアカツバメ 阿緜の市街に見るも餘り多からず。

タイワンスズメ 餘り多からず。

五月八日(晴) 午後三時半臺南にて84°F。本日は打狗を發し臺南に着す。見たる鳥類如左。

カイツブリ 六羽打狗・臺南間にて見る。臺南鄭仔寮庄には多く、看西庄には少し。共に生殖羽となりたり。

ヒクヒナ 一羽鄭仔寮庄にて見る。

シロハラクヒナ (*Amatornis phoeniceus* (Penn.)) 一羽鄭仔寮庄にて見る。

バン 一羽臺南鹽埕庄にて見る。

レンカク(蓮角) (*Hydrophasianus chirurgus* (Scop.)) 一羽成鳥を鄭仔寮庄のヒシ池に見たり雌雄ならん。其飛翔は低く鷺に類す。

ベニバト 臺南市街内にも多し。

カノコバト 看西庄、餘り多からず。

セツカ 看西庄に多し。

シマモズ 一羽舊城附近にて見たり少し。

ヒメ、ジロ 臺南に多し。

タイワンスズメ 可なり多し。

五月九日十日は採集を行ふ特記すべき事なし。

五月十一日臺南を發し再び嘉義に赴く。

五月十二日(晴、後夕立あり) 午後二時列車内にて76°F。阿里山にて五時半81°Fに降る。本日は嘉義の北門を發し輕便鐵道にて竹頭崎に着し、それより危險なる所謂阿里山鐵道によりて阿里山七〇五〇呎の地點第三スキッチに下車す。竹頭崎より次第に山道となり、獨立山の如きは一山を四回廻りて進行し鐵道線路急にして二十分の一より十六分の一の勾配をなす部分あり。隧道は七十二あり。徐行の部分多く人の歩む位のミッころもあり。終點に近づけばベニヒノキの林壯大にして偉觀を呈す。

又塔山の絶壁左に見ゆ。嘉義よりは僅かに四十三哩にして達するも時間は非常に長く、午前七時三十分より午後五時三十分迄を要せり。當山は涼しく蚊は全く之れを見ず。

本日竹頭崎・阿里山間にて見たる鳥類は

ルリテウ (*Myiophonus insularis* Gould) 數羽を見る。主としてトンネルなきの入口にて水の少しく流るゝ部分。

ミヤマヒタキ (*Hemichelidon ferruginea* Hodges) 十字路驛近くにて電線に止れるを見る。附近の樹木鬱蒼たる中に此赤き鳥を見る、最も目立てり。

タイワンツグミ (*Turdus albiceps* Sw.) 一羽白頭の雄を見る、珍らしき鳥類なり。

カハビタキ (*Rhyacornis fuliginosa affinis* (Grant)) 三羽内雄一羽雌二羽奮起湖附近の水流にて見る。速し。

タイワンウグヒス (*Horreus canturians* Sw.) 獨立山にてホケキヨの聲を聞く内地のものよりも鳴聲惡し。

チャバラゴジウカラ (*Sitta sinensis* Ver.) 一羽攀木し居るものを見たり、少し。

カラス類 十字路にて見る恐らくリウキウハシブトガラスならん。

五月十三日十四日阿里山にて採集をなす。

五月十五日(晴、後少雨あり) 午前六時阿里山にて 54.5. あり寒ろ寒し。内地の秋の氣候なり。午後五時半嘉義にて 87.5. あり。温度の差大なり。本日は阿里山驛即ち沼の平(海拔七五〇〇呎)より乗車して嘉義に歸着、途中山櫻の満開せるを見る。

イチゴの實を結べるあり。

ツツドリ 阿里山にて午前七時二十分ボン／＼の聲を聞く遙に遠し。

ゴシキドリ (*Gyanops nuchalis* Gould) の聲「ロ／＼／＼」を十字路附近にて聞く、七八千呎の地點には産せず。

五月十六日(晴後少雨あり) 午後三時列車にて遂に 88.5. に達す。本日は嘉義發列車にて臺北に歸着す。即ち二十日間を

南部の旅行に費せり。本日二八水・彰化間にて見たるものは

シロハラクヒナ 二羽を見る。

オウチウ 三羽を見る、基隆・阿横間にて鐵道沿線の一方の側のみにて本種を見たる數百三十六羽に達す、但重複せるものを加算せず。

タカサゴモズ 一羽を見る。

五月十七—十八日 特に記すべき事項なし。

五月十九日(雨天) 本日は臺北附近の採集を行ひ景尾・新店附近に赴く見たる鳥類は

ヒメトンビ 二羽、新店の川邊にて見る。

リウキウハシブトガラス? 一羽同上。

五月二十日(雨天) 午後一時半 89.5. 本日臺北の旅館庭内にクロヒヨドリ二羽來り榕樹又は電線に止る。四月末南部に赴く以前には本種を見ざりき。

五月二十一日特記なし。本日臺北を發し北投に赴く午後二時臺北にて 79.5. なり、涼し。

五月二十二日(半晴、曇稍涼し) 淡水に至り一日の採集を試み又北投に一泊す。本日見たる鳥類は

ヒメトンビ 一羽を見る。

ダイシヤクシギ? 一羽砂上にて見る。遠し。

オホソリハシシギ? 一羽 同 上

イソシギ 三羽を見る少し。

ホ、ジロセキレイ 一羽を見る。

オホヨシキリ 少し。  
セツカ 聲のみを聞く。  
ヒメ、ジロ 餘り多からず。

以上は凡て淡水にて見たるもの。

五月二十三日(晴) 北投にて午前十時 7.0.15. 午後二時臺北にて 8.0.15. あり。本日北投にて最後の採集を行ひ直に臺北に歸る。

五月二十四日(晴) 記事なし。

五月二十五日(半晴、後少雨) 本日臺北を發し基隆に至り水族館其他を觀覽し、亞米利加丸に投乗したり。午後四時基隆港を發し臺灣の地を去れり。本日左の臺灣鳥類の最後の觀察をなす。

アカエリヒレアシシギ ならん十羽位の群基隆港内の水上に浮び、時々少しく飛びては又浮べり。船舶多きを恐れざるなり。  
ユリカモメ? 二羽基隆港外の波荒き内に見る。

### C 基隆神戸間にて見たる鳥類

四月二十六日(曇り少雨) 海上にて左の鳥類を見る。

アカエリヒレアシシギ? 三群各十乃至十五羽位、海上に浮び時々群飛し又浮ぶ、昨日基隆にて見たるに同様にて數多し。

觀察せる地點は宮古島沖邊にて基隆を去る凡そ一八〇浬なり。午前七時。

リウキウカツヲドリ? 一羽同上の地點にて飛べるものを見る、壯大に見えたり。

五月二十七日(曇、後半晴) 本日は左の鳥類を見たるのみ

キセキレイ 一羽九州地近くなりて來る。

五月二十八日(晴) 午前六時三十分門司着。

トビ 一羽を門司にて見る。

九月二十九日(晴、後曇り) 亞米利加丸は一時間餘延着して神戸港に入る。

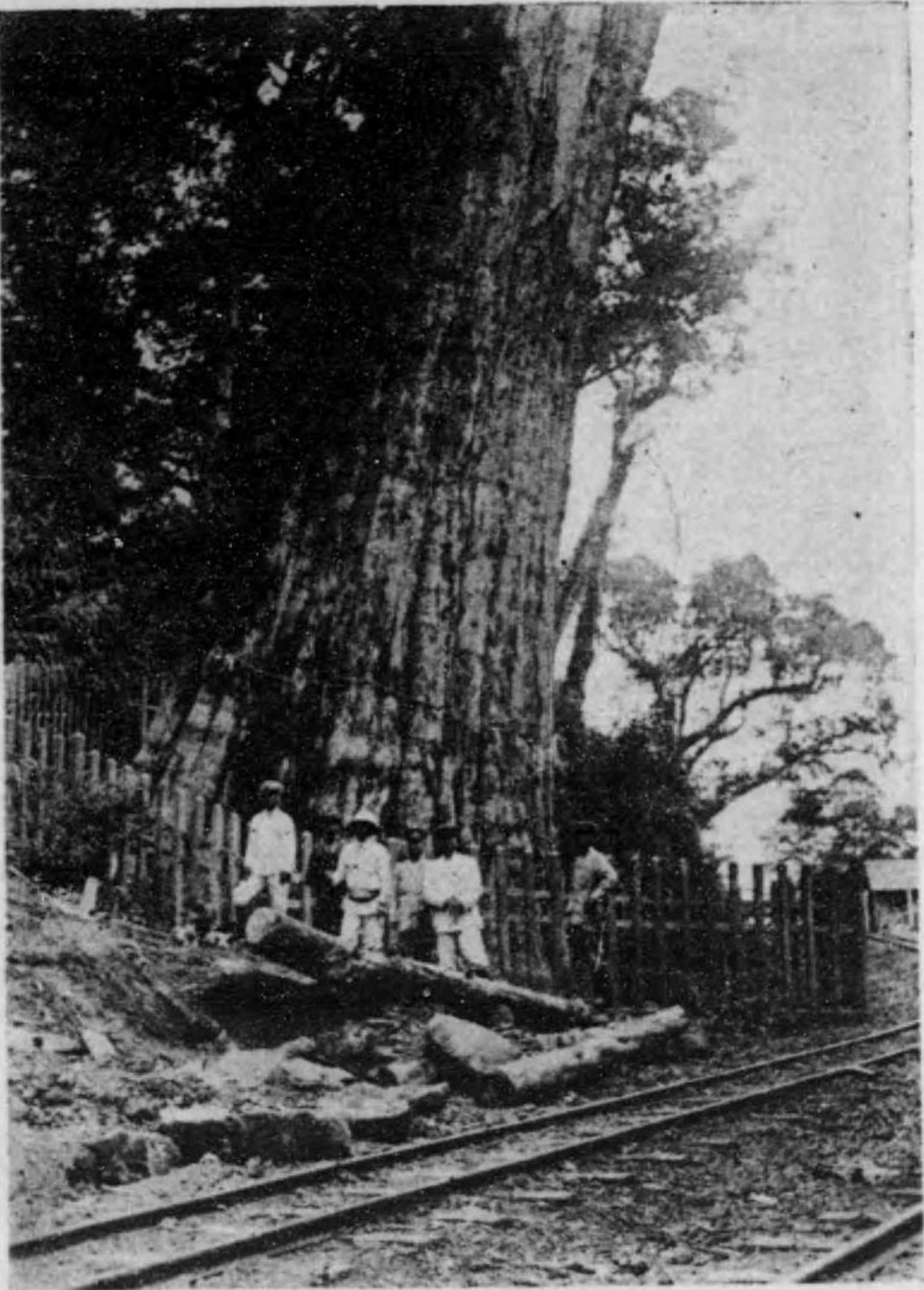
ウミノコ? 一羽を神戸港にて見たるのみ。數の少きは恐らく繁殖期なるにより他に移住せる爲めならん。

五月三十日(曇、後晴) 午前八時四十分東京歸着。

### 二、臺灣鳥類の採集に就て

臺灣内にての採集が内地にて行ふに別段異なることなきも只交通機關の利用の點に於て吾人の想像意外なるものあり、即ち内地にて十數里も不便なる山地に入るには大に困難にして且つ多くの時間を要せざるべからず。然るに臺灣にては例へば埔里社に赴くにも彰化より南投迄輕便鐵道あり南投より集々を経て埔里社に達する長き間臺車の便あり、此便あるが爲めに臺車上にて鳥類を認めなば直に之れより下車して採集を行ふを得べし。山は險しくして雜草茂り當底其土地に住めるものにあらざれば内地人の此内に入りて採集する事不可能なり。且つ銃にて打落したりするも雜草の爲め殆んき見出すことを得ざるなり。臺車の道なれば採集容易にして勞れず、且つ多くの獲物を長き里程の各地にて得らるゝなり。此の如き臺車は討伐隊の爲めに設けられし由なるも其後平定せる今日は或は製糖會社の利用する處となり或は土人の交通の機關となり或は内地人の旅行に利用することを得るなり。霧社に赴かんとするにも肩溪迄は稍不完全ながら此臺車あり、遲き輕便鐵道よりは却つて臺車の方早くして揺れず且つ又愉快なり只稀れに脱線することあるを遺憾とするのみ。されど注意せば危險少し。阿里山七五〇呎の地に赴くにも前述の如く鐵道あり視察に赴く者の爲めには特に客車風のもの設備せらるるにより思ひし程の困難なし、只危險の點は臺車旅行以上なり。されど阿里山の採集は全く此便あるによりて行ひ得るに云ふべし。阿里山の採集は樹木非常に高きこと及び其下に雜草、叢、生ひ茂りて丈餘に及ぶ故先づ鳥類を打ち落すには下の茂らざる地を見て後に行はざるべからず。余等は始め

經驗なき爲め二十羽近くを打ちながら終に空しく失へり。又樹木高きによりて普通の二連銃にては弾丸の達せざるもの多し。高木の上にて木々を渡り行く小禽には猶ほ多少の新らしき種類あり得る様に見ゆるも如何せん採集するを得ず他に方法を講ぜざるべからず。茲に又阿里山にては生蕃の蕃童をして採集を援助せしめたり彼等は銃を持つこゝを非常に好む故喜びて之れに應ぜり故に生蕃も亦採集には極めて必要な助手たるなり。次にミ



阿里山神木ニホキノ前に於て採集一行

カドキジ、テツケイ、ミヤマテツケイ、ヤイロウ等を採集するには土人に命じて足くまり良又は首くまり良にて捕獲するを最も可き。是等鳥類は高山の森林に棲息する故、銃にて採集は寧ろ非常の困難なり。良には南風蟲ミカドキ稱する甲蟲を餌ミナすあり又は鳥の通路に良を設くるありミヤマテツケイ、テツケイの如きは前法にて捕獲しミカドキセウビン等を捕獲するによし云ふ。

第二圖

次に今回採集せる鳥類目録を掲げん。

a 採集鳥類目録

今回余の旅は已に前述の如くなるが今採集地名を列記せば

臺北廳管内——古亭庄、景尾街、新店街、北投、及び淡水河口等、

南投廳管内——南投附近、隘寮庄、柴橋頭庄、集々、水裡坑、茅埔庄、新城庄(新年庄)、

魚池、水社、埔里社及び其附近、眉溪、霧社(バーラン社)等、

嘉義廳管内——主として阿里山。

臺南廳管内——鹽埕庄、鄭仔寮庄、看西庄、

阿緬廳管内——枋山支廳附近(但し菊地氏のみ採集)

此採集に於て九十三種類、總計三百三十五羽を得たり。早川政次郎、菊地米太郎、松尾孫四郎、風野鐵吉、諸氏今回の採集に關し多大の援助を便宜を與へられたるこゝに對し茲に感謝の意を表す又特記すべきは石橋南投廳長は余の爲めに多數の同廳管内産鳥類を寄贈せられしこゝ深く鳴謝するこゝろなり。

鷓鴣科

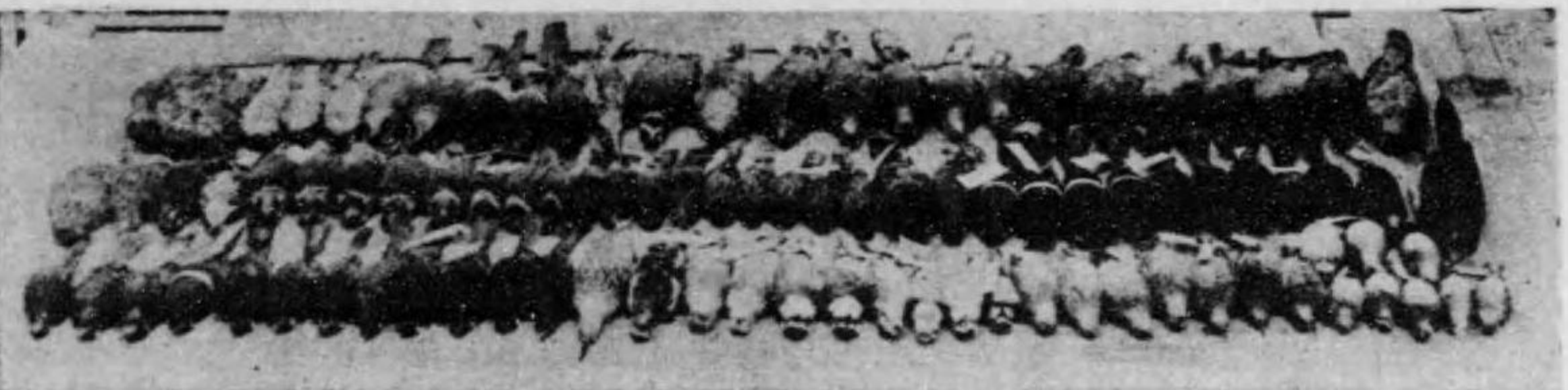
1. *Podiceps javanensis philippensis* (Bonn.) カインブリ

南投廳水社——五月二日雄二、雌一、五月三日雄一、雌二、

鷺科



採集物 (其一)



採集物(其二)

- 2. *Herodias garzetta* (Linn.) コサギ、シラサギ  
臺南廳看西庄——五月十日雌一、
- 3. *Bubo coronatus* (Bodd.) アマサギ、シヤウジヤウサギ  
臺南廳看西庄——五月十日、雄二、雄幼期一、臺北廳新店街——五月十九日、雄一、雌一、
- 4. *Falco merrilliensis* (Meyen) ムラサキサギ  
南投廳水社——五月二日、雄幼期一、
- 5. *Nyctiopeus nyctiopeus* (Linn.) コキサギ  
南投廳水社——五月三日雄三、雌四、臺北廳新店街——五月十九日、雄三、
- 6. *Buteo tides javanica amurensis* (Sohrenk) サ、ゴキ  
南投廳水社——五月二日雌一、五月三日雄二、
- 7. *Ardea cinamomea* (Gm.) リウキウヨシゴキ  
臺南廳鹽埕庄——五月九日雌幼期一、
- 8. *Accipiter affinis* Hodgs. タイワンツミタカ  
南投廳柴橋頭庄——五月四日雌一、
- 9. *Sporornis cheela* (Latham) オホカンムリワシ  
南投廳茅埔庄——五月四日雌一、

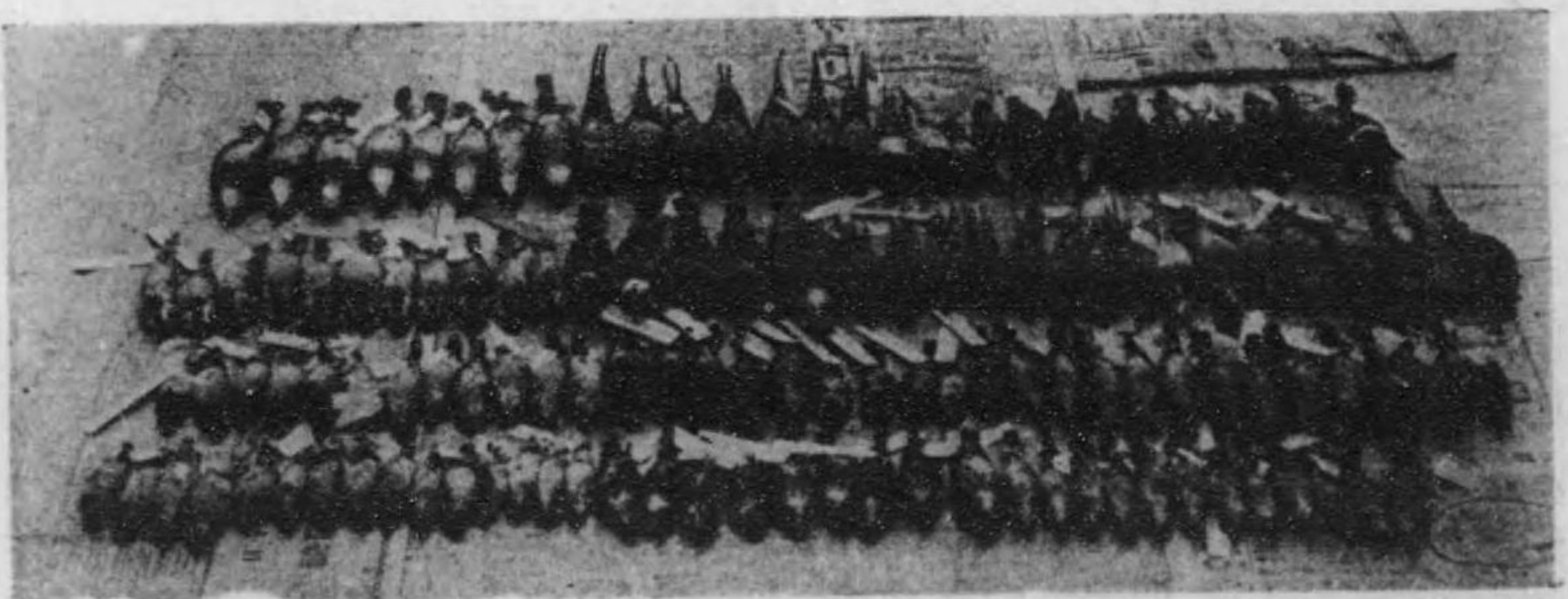
- 10. *Nleus ater* *gouinda* Sykes コメトシヤ  
南投廳魚池——五月二日雄一、同埔里社——五月十日雌一、臺南廳鹽埕庄——五月九日雌一、

鸚鵡科

- 11. *Pantion halictus* (Linn.) ヌサシ  
臺北廳淡水河口——五月二十二日雄一、

雉科

- 12. *Calophaps mitkado* Ogilvie-Grant ミカドキジ、フテフテ(蕃語)  
嘉義廳阿里山——五月十日雄一、五月十一日雄一、五月十三日雌二、
- 13. *Gallus us seinhoii* (Gould) サンケイ、ヲワケイ(土名) セイバンキジ(俗稱)  
南投廳埔里社——四月二十九日雄一、雌一、嘉義廳阿里山——五月十二日雌一、
- 14. *Arboricola crinitularis* (Swinhoe) シヤマテンケイ、アンカテツケイ(土名)  
南投廳埔里社——四月二十九日雄一、雌一、嘉義廳阿里山——四月十四日雄一、
- 15. *Bambusicola sonorivox* Gould テツケイ  
南投廳思里社——四月二十九日雌一、同水社——五月二日雄一、同柴橋頭庄——五月四日雄四、雌二、
- 16. *Porzana fusca* (Linn.) ヒクヒナ



採集物(其三)

南投廳水社日月潭——五月三日雄二、

鷓鴣科

17. *Charadrius fuscus* Gm. ムナグロ  
臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、
18. *Actitis dubia* (Scop.) ミナミコチドリ  
南投廳埔里社——五月十二日雌一、
19. *Actitis cantiana dealbatus* Sw. シロチドリ  
臺北廳淡水——五月二十二日雄二、
20. *Ochthodromus geoffroyi* (Wagl.) オホメダイチドリ  
臺北廳淡水——五月二十二日雌二、
21. *Ochthodromus mongolicus* (Pall.) メダイチドリ  
臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、雌一、同鄭仔寮庄——五月十日雌二、臺北廳淡水——五月二十二日雄幼期一、
22. *Tringoides hypoleucis* (Linn.) イソシギ  
南投廳埔里社——五月二日雄一、臺南廳看西庄——五月十日雄一、
23. *Limonites ruficollis* (Pall.) トウネン  
臺南廳鹽埕庄——五月九日雄十二、雌六、同鄭仔寮庄——五月十日雌四、
24. *Limonites subminuta* (Midd.) ヒバリシギ  
臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、雌二、

本種は今回始めて臺灣にて獲られしもの、

25. *Tringa crassirostris* L.&S. ラハシギ

臺南廳淡水——五月二十二日雄一、

本種も今回始めて採集せられしもの、

26. *Actochilus subargutus* (Güldenst.) サルハマシギ

臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、雌一、同鄭仔寮庄——五月十日雌一、

27. *Heterogygia acuminata* (Horsf.) ウヅラシギ

臺南廳鄭仔寮庄——五月十日雌四、

28. *Phalaropus hyperboreus* (Linn.) アカエリヒレアシシギ

臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、

鳩鴿科

29. *Turtur humilis* (Temm.) ヂニバト、コバト(俗稱)

臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、

30. *Turtur chinensis* (Scop.) カノコバト

南投廳埔里社——五月一日雌一、同魚池——五月二日雄一、同隘寮庄<sup>アライヤウ</sup>——五月四日雌一、同柴橋頭庄——五月四日雌

一、

31. *Chalcophaps indica* (Linn.) キンバト

南投廳埔里社——四月二十九日雄一、同柴橋頭庄——五月四日雄一、雌二、

82. *Sphenocercus sororius* Swinh. タイワンアラバト

南投廳水社—五月四日雌一、

杜鵑科

83. *Cuculus saturatus* Hodgs. ツノドリ

南投廳埔里社—五月二日雄一、

84. *Centropus javanicus* (Dumont) バンケン

南投廳埔里社—五月十五日雌一、

翡翠科

85. *Alcedo tityda bengalensis* Gm. カハセミ

南投廳埔里社—四月二十九日幼鳥一、五月二日雄一、雌一、同水社—五月三日雄二、臺南廳看西庄—五月十日雌一、

梟鴞科

86. *Sops semitorques pygmi* Gunney ブライエルヅク

南投廳埔里社—四月二十九日幼鳥二、同柴橋頭庄—五月四日幼鳥一、

87. *Syrnium indrane* (Sykes) オホフクロ

嘉義廳阿里山—五月十二日雌一、

本種は稀なる種類にして蕃童の採集せるものなり胃中小哺乳動物ありたり。

五色鳥科

88. *Cyanops nuchalis* (Gould) ヨシキドリ

南投廳水裡坑—四月二十九日雄二、同水社—五月三日雌二、五月四日雄一、

八色鳥科

89. *Pitta nympha* T.&S. ヤイロテウ

南投廳埔里社—五月一日雌一、

告天子科

40. *Atanda guttata* Sw. タイワンヒバリ

南投廳埔里社—五月二日雌一、臺南廳鹽埕庄—五月九日雄一、雌二、同看西庄—五月十日雄一、

鵲科

41. *Motacilla boarula melanope* Pall. キセキレイ

南投廳水社—五月三日雄生殖羽一、

42. *Motacilla flava taiwan* (Sw.) ツメナガセキレイ

南投廳埔里社—五月一日雌一、五月二日雄二、臺南廳鹽埕庄—五月九日雌一、同看西庄—五月十日雄二、雌一、

43. *Motacilla alba leucogis* Gould. ホ、ジロセキレイ

南投廳新年庄—五月四日雄一、

知目鳥科

44. *Trochilopteryx taivanus* (Swinh.) ホイビイ

南投廳霧社—五月一日雄一、



- 45. *Trochilopternum morrisonianum* Grant キンバネホイホイ  
嘉義廳阿里山——五月十四日雌一、
- 46. *Pomatorhinus musicus* Swinh. ヒメマルハシ、ホイビイクウ(土名)  
南投廳水裡坑——四月二十九日雄二、
- 47. *Alcippe morrisonia* Swinh. メジロチメドリ、シレツク(蕃語)  
南投廳水裡坑——四月二十九日雄二、同霧社——四月三十日雌二、五月一日雄一、同水社——五月四日雄二、雌一、嘉義廳阿里山——五月十三日雌一、
- 48. *Scolecophagus brunneus* (Gould) チメドリ  
南投廳霧社——四月三十日雄一、
- 49. *Stachyphidopsis praecognitus* Swinh. ツアカチメドリ  
南投廳霧社——四月三十日雄一、
- 50. *Myiophonus insularis* Gould. ルリテウ  
嘉義廳阿里山——五月十三日雌一、
- 51. *Actinodura morrisoniana* Grant. シマドリ  
嘉義廳阿里山——五月十三日雄一、雌一、五月十四日雄一、雌二、
- 52. *Yuhina brunneiceps* Grant. カンムリチメドリ  
嘉義廳阿里山——五月十三日雄二、雌二、五月十四日雄二、雌一、幼鳥一、
- 53. *Liochilus steeri* Swinh. ヤブドリ

- 南投廳霧社——五月一日雌一、嘉義廳阿里山——五月十四日雄一、雌二、
- 54. *Sutora morrisoniana* Grant. ニイタカハシブトチメドリ  
嘉義廳阿里山——五月十四日雄二、

鴨 科

- 55. *Pycnonotus taivanus* Stryan クロガシラ、ヲタコ(鳥頭、土名)  
阿緜廳枋山——五月十七日雄二(菊地氏採集)、
- 56. *Pycnonotus sinensis formosae* Hart. シロガシラ、ヘタコ(白頭、土名)  
南投廳集々——四月二十八日雄一、同埔里社——五月一日雄一、五月二日雄一、雌一、臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、同看西庄——五月十日雌一、臺北廳北投——五月二十二日雄三、
- 57. *Spirixus ethericaepillus* Swinh. カヤノボリ  
南投廳霧社——五月一日雌一、同魚池——五月二日雌一、同茅埔庄<sup>マヤノボリ</sup>——五月四日雄一、
- 58. *Hypsipetes nigerrimus* Gould. クロヒヨドリ アンツイオウチウ(紅嘴烏秋、土名)、アンツイ(紅嘴、土名)  
南投廳水裡坑——四月二十九日雄三、雌一、同霧社——五月一日雌一、臺北廳北投——五月二十二日雄一、雌一、五月二十三日雄二、雌一、

鶉 科

- 59. *Hemichelidon ferruginea* Hodgs. ミヤマヒタキ  
嘉義廳阿里山——五月十三日雄四、五月十四日雄四、本種の雌は採集するを得ざりき。恐らく巢内にありしか。
- 60. *Hemichelidon graysoniata* Sw. エゾビタキ

南投廳南投附近——四月廿八日雄一、

61. *Hypothymis azurea* (Bodd.) クロエリヒタキ

南投廳水裡坑——四月二十九日雄一、雌一、臺北廳淡水川土キ——五月二十二日雌一、

62. *Cryphotopha fulvifacies* (Swinh.) コシジロヒタキ

南投廳霧社——四月三十日雌一、

臺灣にては珍種にして獲雌きものなり。

鶇科

63. *Rhyacornis fuliginosus affinis* (Grant) カハヒタキ

嘉義廳阿里山登山道奮起湖——五月二十日雌一(菊地氏採集)、南投廳霧社——四月三十日幼鳥二、

本亞種は是れ迄鶇科に編入せる學者多かりしも研究の結果ジャウビタキ等に近き種類にして鶇科に入るを正常なりとす。

64. *Fantlia johnstoni* Grant. アリサンヒタキ

嘉義廳阿里山——五月十四日雄一、雌三、

65. *Notodola leucura montium* (Swinh.) コンヒタキ

南投廳霧社——四月三十日雌一、

柴鶇(鶇)科

66. *Acrocephalus orientalis* (T.&S.) オホヨシキリ

臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、

臺灣にて本種は至つて稀れなり。

67. *Phylloscopus borealis* (Blasius) コムシクセ

南投廳埔里社——五月一日成鳥一、

68. *Phylloscopus torquatus ranthoerigus* Sw. メボソ

南投廳埔里社——四月三十日雌一、

69. *Syza tringera* Hodgk. ハウチワドリ

南投廳水裡坑——四月二十九日雄一、

70. *Prinia inornata formosa* Harrington. マミハウチワドリ

南投廳集々——四月二十九日雄一、同埔里社——五月一日雄一、臺南廳看西庄——五月十日雄一、臺北廳新店街——五

月十九日雄三、

本亞種は是れ迄 *Prinia extensicauda* の同定せられしものなるが一九二三年ハリントン氏によりて區別せらる (Bull, B. O. C.,

XXXI, 1913, p. 111)

71. *Burnsia sonitans* (Sw.) アナハウチワドリ、キバラハウチワドリ、

南投廳埔里社——五月一日雄一、五月二日雌一、臺南廳鹽埕庄——五月九日雄二、

埔里社にて本種の巢を四卵を採集す。巢は入口横にあり。卵は淡煉瓦赤色にして光澤あり鈍端近くに不判明なる汚點によりてリングをなす。大さは平均一六×一二程度あり。

燕科

72. *Hirundo rustica gutturalis* Scop. ツバメ

南投廳南投附近——四月二十八日雌一、臺南廳鹽埕庄——五月九日雌一、

73. *Hirundo daurica striolata* T.&S. オホコシアカツバメ

臺北廳景尾街——五月十九日雄一、雌一、同新店街——五月十九日雄四、雌一、

74. *Coriis sinensis* (J.E.Gray) テウセンシヨウドウツバメ

臺南廳鹽埕庄——五月九日雄一、

シヨウドウツバメ (*Coriis riparia*) を臺灣より報告せる人あるも恐らく本種の誤りならんグラント氏も本種を臺灣より得たり。

山椒喰科

75. *Pericrocotus griseigularis* Gould. ヘニサンシヨクヒ

南投廳水社——五月三日雄一、雌二、

76. *Graculus ver-jinhai* Swinh. オニサンシヨクヒ

南投廳水社——五月三日雌一、

鳥 秋 科

77. *Buchanga atra* (Hermann) オウチウ、タイワンガラス(俗稱)

南投廳集々——四月二十八日雄一、同魚池——五月二日雌一、臺南廳看西庄——五月十日雄一、臺北廳新店街——五月

十九日雌三、臺北廳北投——五月二十二日雄一、雌一、

73. *Chaptalia brunniana* Swinh. ヒメオウチウ

南投廳眉溪——四月三十日雄二、

鴉 科

79. *Lanius cristatus lucionensis* Linn. シヤマモズ

臺南廳看西庄——五月十日雄一、

80. *Lanius schach* Linn. タカサゴモズ

南投廳魚池——五月二日雄二、同埔里社——五月二日雌一、臺南廳看西庄——五月十日雌一、

四 十 雀 科

81. *Egithalus concinnus* (Gould) ツアカガラ

嘉義廳阿里山——五月十三日雌一、

金 腹 科

82. *Montia formosana* Swinh. タイワンキンバラ、エンタウ(土名)

南投廳埔里社——四月二十九日雄一、

83. *Nanius topela* Swinh. シマキンバラ、セイバンスバメ(俗稱)

南投廳埔里社——四月二十九日雄三、雌二、五月一日雄一、五月二日雌一、南投廳水社——五月三日雄二、臺南廳鹽埕

庄——五月九日雌一、

84. *Uroloncha aruticauia squimicollis* Sharpe コシジロキンバラ

南投廳埔里社——四月二十九日雄二、雌二、同水社——五月三日雄一、雌一、臺北廳北投——五月二十三日雌一、

鴉 科

85. *Corvus macrohynchus levantanti* Less. リウキウハシブトガラス

南投廳眉溪——四月三十日雄一、五月一日雄一、

86. *Pica pica sericea* Gould カサ、ギ

臺南廳看西庄——五月十日雌二、

87. *Urocissa caerulea* Gould ヤマムスメ、トンボインテ(尾長姫、土名)

南投廳茅埔庄——四月二十九日雌一、

88. *Pendroctia formosa* Swinh. タイワンチナガドリ、セイバントモエドリ(俗稱)

南投廳水裡坑——四月二十九日雌一、同水社——五月三日雄一、同茅埔庄——五月四日雌一、

89. *Garrulus tairanus* Gould タカサゴカケス

嘉義廳阿里山——五月十四日雄一、雌一、

椋鳥科

90. *Ethiopsar cristatus formosanus* Hartert カアレン(加令)

臺南——九月九日雄一、

本亞種には是迄 *Ethiopsar cristatus* として記述せられたるも一九二二年ハルテルト氏によりて區別せらる (Bull. B. O.C. XXXI, 1912 p. 14)

繡眼兒科

91. *Zosterops pulchrostris simplex* Swinh. ヒメ、シロ

南投廳集々——四月二十八日雄一、臺南廳看西庄——五月十日雄一、雌二、臺北廳新店街——五月十九日雄一、臺北廳

北投——五月二十一日雌一、五月二十二日雄二、雌一、幼鳥三、五月二十三日雄二、雌一、幼鳥一、

花 鶏 科

92. *Carpodacus formosanus* Grant タカサゴマシユ

嘉義廳阿里山——五月十八日雌一(菊地氏採集)

本標本は翼短かくして少しく疑ひを存すれども恐らく本種の幼期ならん。翼は七六乃至八一耗あるべきなるに此標本は七三耗あるのみ。

93. *Pas er montanus taiwanensis* Hartert タイワンス、メ

臺北——四月二十三日雄一、雌二、四月二十四日雌一、臺北廳古亭庄——五月十七日雄六、雌四、南投廳埔里社——五月一

日雄一、同集々——五月四日雌一、臺南廳埋庄——五月九日雌二、臺北廳北投——五月二十三日雄二、

ハルテルト氏により普通雀より區別せらる余も亦之れを正當と信ず。

b ミカドキジに就て (口繪参照)

今回渡臺したる余の重なる目的は臺灣特産たるミカドキジの標本を得るにありき。本種の標本を所蔵せるは内地にては臺灣總督府より東宮御所へ献上したるもの、外他に一ヶ所あるかなきかなり云ふ。然かも帝室博物館、理科大學動物學教室等には全く之れを有せず大に研究上不便を感じしこゝ斯學者の等しく嘆ぜし所なり。臺灣にありては臺北博物館に一番の標本を蔵せるものあり(但し雌は假剝製なり)又今回の共進會にも一番を陳列す(大正五年三月採集、採集に一ヶ月を要す)總督府國語學校に雌の假剝製一個(明治四十五年三月採集)あり又阿里山の營林所庶務近藤幸吉氏所有雌一個(大正五年三月十五日採集)あり。斯くの如く各地に少數を保存せらるゝのみ。

本種發見の経路は多少普通鳥類の場合と異り今より凡そ十年前英國の鳥類採集家 Walter Goodfellow が臺灣島に渡り第一回

の採集をなせる時阿里山に於て生蕃人が帽子飾りをして鳥類の中央の尾羽二枚を用ひたるを見、之れを得て英國の鳥學者 W. B. Ogilvie-Grant に送附せり而してグードフェローは次の如く書添へたり。

"I found these feathers in the head-dress of a savage, who has come to carry our baggage. He said he had killed it on Mt. Arizun and that it was rare."

グラント氏は此の尾羽を検し未だ世界に知られざる珍奇の雄族のものなることを知り一九〇六年之れに *Catophus uhiado* (帝雉)と命名したり而して此時は尾羽のみにて鳥體の全部は知られざりき。明治三十九年(一九〇六年)十一月臺北博物館の採集家菊地米太郎氏は別項記載の如く阿里山の塔山にて初めて本種の鳥體全部を見且つ捕獲したり。此際には引續き二十餘羽の多数を得此標本は横濱の採集家故アラン、オーストンの手に入りたり。稀有の種類なるを知らざるには非ざりしならんも之れを外國へ賣却せり云ふ。然るに其後に至りて殆ん捕獲せられざりき。明治四十一年(一九〇八年)四月に採集せる雄は今臺北博物館に陳列せるものにして次に明治四十五年(一九二二年)の春グードフェローは本種の活物を得る目的にて再度渡臺し阿里山に登り三ヶ月間を要し菊地米太郎氏の助力を得、生蕃をして良を各方面に置かしめ懸賞して本種の活物十一羽(雄八、雌三)及び他に死物二羽を得たり。而して此の十一羽は安全に英國に持歸り昨今にては産卵繁殖して高價なる活物の賣物を見るに至れり云ふ。國語學校にあるものはグードフェローの得たる内の死物ならんか。大正元年八月雌一羽採集せられ假剥製として臺北博物館に所藏せらる。次に大正二年の頃總督府の植松囑託によりて四羽捕獲せられし由。

今回大正五年の共進會出品の爲め一ヶ月間を要して三月中旬に一番を捕獲す。前記近藤氏の所有品も之れ同時の捕獲ならん。上記の如き経路を経て今日に至れり。

今回余は活物を得るは大に困難なるべきも一羽なりとも標本を得たきものと思ひしも只登山したるのみにては土地不慣なる余等には(菊地氏は此時他に公用ありて採集中)成功するや否やを疑ひ五月六日嘉義廳に捕獲方の助力を依頼し置きたり。同廳

第六圖



ミカドキジ採集紀念に獲るに從事せる蕃童

にても好意を以て蕃人主として蕃童九名に一名の生蕃の巡查捕を附し阿里山八千呎の地點附近に一週間滞在し捕獲を命じられたり。蕃童等はミカドキジの通る經路に良を置き日々これを見巡りたり。但し一名にて良四五十位を一里位の各方面に配置せり。此時余等の一行は臺南に滞在採集中なりしが五月十日夕刻嘉義廳より電話にて帝雉雄一羽捕獲せりとの報あり。直に東京より同行せる剝製師須藤をして急行せしめたり。翌十一日阿里山登山口なる竹頭崎にて標本となす。余も亦同日嘉義に引返し其標本を見て眞の帝雉なるを知り大に喜び翌十二日阿里山へ登れり。途中列車内にて又報あり昨日再び雄一羽を捕獲せり大に勇みて阿里山第三スキッチに下車し宿所に入れり。翌十三日又々雌二羽を得たり。此に於て捕獲せる生蕃と共に紀念の影をなす。僅に一週間内に四羽を得たるは非常なる好運なり云ふべく。之れ全く嘉義廳の助力多大なるに起因す。雖も蕃人の努力も亦尠しませず。

グードフェローの第二回採集の際、帝雉を捕ふる目的にて配置せし良にて他の動物を副採集物として得たり云ふ其は次の如き種類なりし。即ちミヤマツケイ、タイワンジユヅカケ

バト、キンバネホイビイ、ヤマシギ二羽、及びタイワンザル (*Macacus cyclops Sw.*) なり。  
 今回も帝雉の良にてサンケイ雌一羽、ミヤマテツケイ雄一羽、キンバネホイビイ雌一羽、及びルリテウ雌一羽を得たり。

今回採集したる帝雉の雄二羽は共に殆んど同色なるも尾羽の横帯の中其他に相違あり。其他翁の色彩は嘗てグラントがロスチャイルド所有の標本を Major Jones に寫生せしめ H. Grönvold によりて着色版圖版をなしたるものに比すれば紫赤色少し。雌も亦グラントのものより赤味に乏し。余の考ふる所によれば是迄余の見たる雌雄は皆今回のものと同色にしてグラントの原圖と稍異なれり。今回の雌雄は皆成鳥なり。解剖の結果雌の如きは卵巢中に已にスツボンの卵大に發達せる卵ありしによりて明なり。故に眞の帝雉の色彩はグラントのものに少しく異なるを正常なりと信ず。

帝雉の食物に關して嘉義廳の人より聞きたるにころによれば經驗者に尋ねしに本種はイチゴ (*Rubus arisanensis Hay.*) のある季節には之れを好み又蕃語にて「フクウーヒョウ」(*Oriodendron sp.*) に云ふ木の赤き實、「ツウム」に云ふ木の赤實を食ふ、その他は昆蟲なりと云へり。又グードフェローよりグラントが聞きたるものによれば食物は嚙嚢内に新鮮なる樹葉あり又冬にて昆蟲少きにも拘はらず之れを食し居れりと云ふ。其當時イチゴは猶ほ花を開き居て實を結ばざりしも食物の主要なるものにして之れの實を求むること確かなるべしと記せり。今回の獲物に就て食物を取出したるに胃中には消化を助ける爲めの銃彈 B 大の小石多くある外は全く粉碎せられて鑑定付かず。されど嚙嚢に充滿せるものには多少形を存するものあり多くは植物性なり。只一羽の雌には昆蟲の幼蟲二十一匹を存せり。此幼蟲は内田學士の鑑定を乞ひしに大蚊科 (*Epididae*) の幼蟲なりと判明せり (水中又は泥地に棲息する由)。次に植物性食物は全部を早田博士に送附して鑑定を依頼せしに次の如き植物等なりと云ふ。

Ferns 羊齒類、多量

*Pteris* モヘイジシダの類、多量

*Asplen.* アブラギクの類、少量

*Copris* アリサンワウレンの類、極めて少量

*Tanys* タイワンツガの類、少量

其他の植物は餘り粉碎し過ぎて不判明なりとのことなり。右の食物を教示せられたる兩氏に對し深く感謝の意を表す。

次にミカドキジの蕃語を記せば

雄 ムネギヨフ、テフテ

雌 フテフテ或はフツフツ(發音の具合にて多少變化あり)

以上の如きも一般に動物の雄を指してモンゲョーフと云ふを冠せしむる様にて發音の具合にてムネギヨフなるならんを考へらる要するに帝雉はフツフツと知りて大なる相違なし。

### 三、臺北、臺南兩博物館所藏鳥類標本

臺北博物館所藏鳥類標本の調査に關しては大島技師、菊地囑託兩氏の種々便宜を與へられたることに對し感謝するものなり。當博物館には二百十九種類の鳥類標本を藏せり。此標本目錄は動物學雜誌本年八月號に掲載することにしたるを以て茲には單に珍奇なる種類の名を出すに止めん。

クロトキ、ハゲワシ、ムネアカハヤブサ、ミカドキジ、セイタカシギ、チナガバト、ヤツガシラ、ウラミ、ヅク、キクチチメドリ、キクチヒタキ、ミヤマイワヒバリ、ミヤマウグヒス、ヒメイワツバメ、ミヤマガラス、キクチメジロ、ハナドリ、ミヤマホ、ジロ等なり。

次に臺南博物館にては風野技手の種々便宜を與へられたるに對し鳴謝す。  
常館には百十六種類の標本を陳列す。其内重なる珍鳥はシロクロサギ(クロサギの白色變型にして美事なる純白の生殖羽のもの)、ガラントウ、タカサゴクロサギ、クロトキ、コウノトリ、ハゲワシ、ムネアカ  
ハヤブサ、コナバシギ、レンカク、オニクワクコウ等なり。

#### 四、臺灣島より新に報告せらるゝ鳥類

前記臺北、臺南兩博物館所藏鳥類、余の採集物、購入せる鳥類其他より左に列記する合計三十四種類は今回新たに臺灣鳥類として報告するものなり。但し二三のものは已に外國人によりて報告せられたり。而して其内、内地に全く産せざる種類に就ては動物學雜誌七月號に邦文の記載を掲げたるにより之等を参照せられたし。

1. *Buteo buteri pacificus* Mathews & Iredale オホアナドリ

本種は硫黃島、小笠原群島及び支那福州等に産する稍大形のアナドリにして臺灣にも之れを産す。

臺北博物館所藏一個あり。

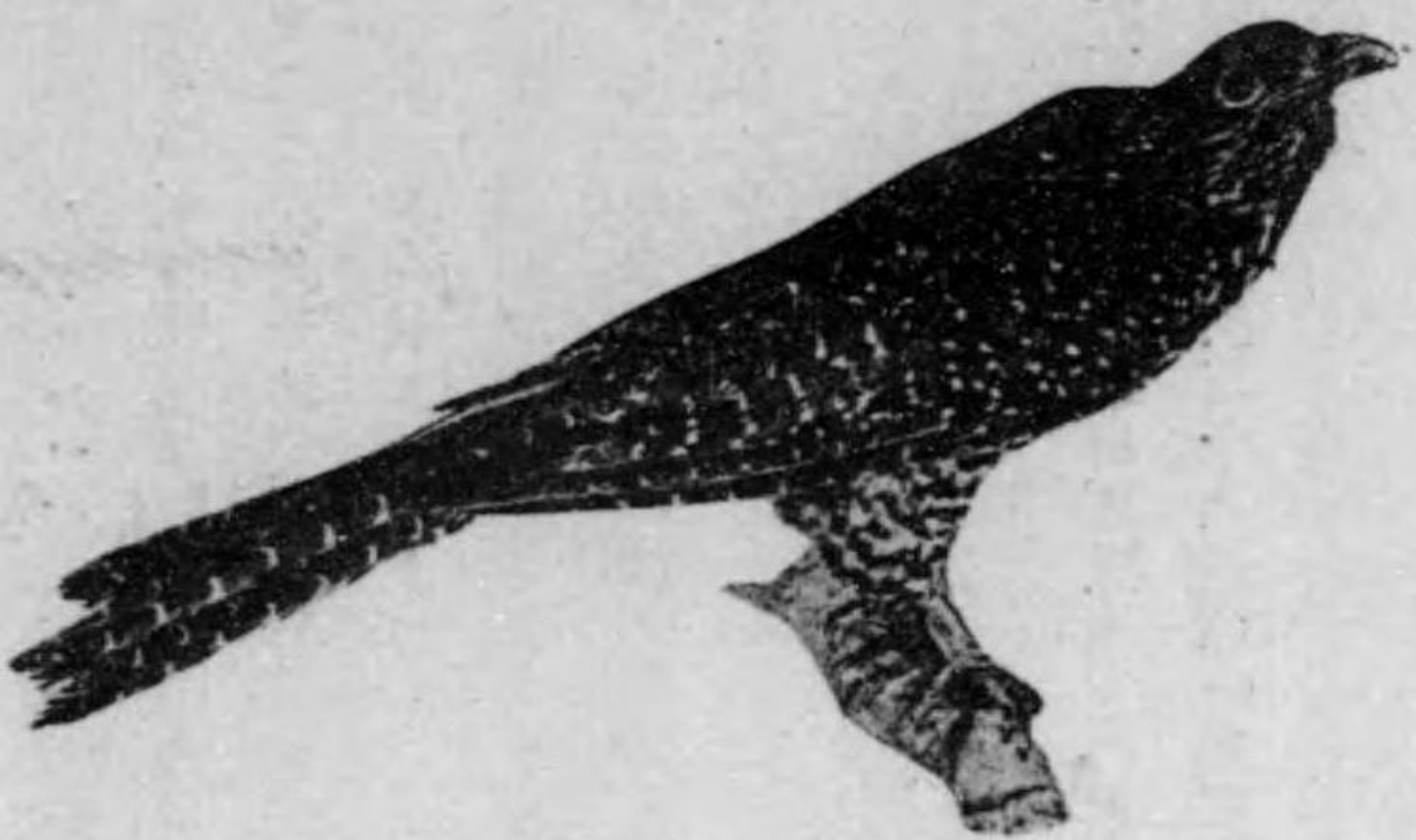
2. *Falco cristatus* Bruch ガラントウ

臺南博物館所藏一個、臺南廳大湖庄にて採集。余の所有一個、臺北廳樹林にて

採集。

3. *Tutorides javanica* (Horsfield) ヒメサノゴキ

第七圖



オホアナドリコウワ雌 臺南博物館所藏

本種(サノゴキ(*B. javanica amurensis* (Schrenk)))は區別し得らる。臺灣には此の二型の種類を産す。ヒメサノゴキは内地には産せず。

4. *Nannocnus eurhythmus* (Swinh.) オホヨシゴキ

今回の共進會第一會場内飼養雌一羽あり。

5. *Ciconia boyciana* Sw. コウノトリ

臺南博物館所藏一個、臺南廳阿公店支廳竹滬庄魚温にて採集。

6. *Ciconia nigra* (L.) ナヰコウ

共進會出品のものにて余の所有一個(幼期)、臺北廳淡水にて採集。

7. *Ibis melanocapilla* (Latham) クロトキ

臺北博物館所藏一個(幼期)、阿緜廳東港にて採集、臺南博物館所藏一個(幼期)。

8. *Melanonyx septem serratoris* (Sw.) ヒシクヒ

臺北博物館所藏一個、臺北廳淡水にて採集、臺南博物館所藏一個。

9. *Cygnopsis cygnoides* (L.) サカツラガン

共進會第一會場出品三個、宜蘭廳羅東公學校所有。

10. *Vultur monachus* Linn. ハゲワシ

臺北博物館所藏一個、桃園廳三角湧にて採集、臺南博物館所藏一個、嘉義附近にて採集。

11. *Haliaeetus albicollis* (L.) ラジロワシ

臺北博物館所藏二個(成鳥、幼鳥)、桃園廳三角湧及び阿緜廳鳳山竹仔港にて採集、臺南博物館所藏三個(幼期)。

12. *Milvus ater goyinda* S. S. Kas コメトノム  
臺北博物館所蔵二個、臺北、臺中、南投廳集々にて採集。
13. *Falco peregrinator* Sander. ムネアカハヤブサ  
臺北博物館所蔵一個(成鳥)、南投廳埔里社にて採集、臺南博物館所蔵一個、余の所有一個(幼期)、南投廳埔里社にて採集。臺灣には普通のハヤブサをも産す。
14. *Pernis apivorus* (L.) ハチクマ  
余の所有一個、臺北廳管内にて採集。
15. *Figulitis dubia dubia* (Scop.) ミナミコチドリ  
臺北博物館所蔵二個、嘉義廳東石坑及び臺東廳知本にて採集。今回埔里社にても一羽採集す。臺灣にはコチドリ (*F. dubia minor*) をも産す。コチドリの方少し。
16. *Limosa melanura melanuroides* (Gould) ナグロシギ  
臺南博物館所蔵一個(生殖羽)。
17. *Limonites subminuta* (Midd.) ヒバリシギ  
今回臺南廳鹽埕にて三羽採集す。
18. *Tringa crassirostris* T. & S. テバシギ  
今回臺北廳淡水河口にて一羽採集す。
19. *Tringa canutus* L. コラバシギ  
臺南博物館所蔵一個(生殖羽)。

20. *Sterna melanauclien* Temm. エリグロアジサシ  
臺北博物館所蔵二個、臺東廳火燒島にて採集。
21. *Eudynamis homorata* (L.) オニクワクコウ  
臺南博物館所蔵一個(雌)、臺南廳塗庫庄赤仔街にて採集。本種は臺灣にては極めて珍奇なる種類に屬す。雄は眞黒色なるも未だ臺灣にて獲られず。雌は挿畫寫眞の如し。本種は海南島に多く産す。
22. *Tringa epops* L. ヤンガシラ  
臺北博物館所蔵一個、宜蘭廳管内にて採集。
23. *Katupa javipes* (Hodgs.) ウラミ、ヅク  
臺北博物館所蔵一個、南投廳埔里社にて採集。余の所有一個、同所にて採集。猶ほ又埔里社の剝製師高羽貞將も一個を藏せり。本種はワシミ、ヅクミ殆んど同大なるも趾の裏面にミサゴの如き針狀突起列生す。こは全く魚族を捕ふるが爲めなり故に此名あり。臺灣島の山溪の樹上に棲息し其數多からず。
24. *Asio otus* (L.) トラフヅク  
臺北博物館に一個埔里社にて採集、台南博物館に一個。
25. *Asio accipitrinus* (Pall.) コニ、ヅク  
臺北博物館に一個、臺北廳管内にて採集。
26. *Brachypteryx curvata* Hodgs. キクチチメドリ  
臺北博物館に一個(雌)、花蓮港廳卓溪<sup>タツカイ</sup>蕃社にて明治四十四年三月二日菊地米太郎氏によりて採集。コバネチメドリに酷似するも附蹠長くして三二耗に達す。



27. *Acenator colaris nipalensis* Hodgs. ミヤマイワヒバリ  
理科大學動物學教室に一個、阿里山にて採集。臺北博物館に二個、新高山にて採集。
28. *Chelidon urbica nigripennis* (Hart.) ヒメイワツバメ  
臺北博物館に三個、阿里山及び南投廳カネトワン社にて採集。
29. *Cotile sinensis* (Jerd.) テウセンシヨウドウツバメ  
臺北博物館に二個、臺北及び南投廳魚池にて採集。余も亦今回臺南廳鹽埕庄にて一羽採集す。臺灣にシヨウドウツバメを産するものとして報告せる人あるも恐らく本種の誤りならん。本種は已に外國によりて臺灣島より採集せる報告あり。朝鮮にも本種を産す。
30. *Corvus pastinator* Gould ミヤマガラス  
臺北博物館に一個(幼期)あり。
31. *Zosterops palpebrosa butanis* McGregor キクチメジロ  
臺北博物館に五個あり何づれも臺東廳紅頭嶼にて菊地氏により採集せらる。本亞種はヒメ、ジロよりも一見して大形なるを知り得べし。フヒリツピン群島中のバタン島にて始めて發見せられし種類なり。臺灣にて紅頭嶼以外の地にては未だ知られず。
32. *Pyrrhula uchiwai* Kuroda ウチダウソ  
理科大學動物學教室所藏標本にして雌雄二個あり。共に阿緬廳四社蕃にて明治四十二年七月十六日に始めて採集せらる。本種は *Pyrrhula nipalensis* に酷似するも尾羽に明瞭なる白色縦斑あるによりて直に區別せらる。臺灣には他にタカサゴウソ、アリサンウソを産すれども是等の種類は尾羽に白色なし。詳しく記載は動物學雜誌本年七月號にあり参照ありたし。

33. *Passer montanus taiwanensis* Hart. タイワンスズメ  
臺灣島普通の種類にして嘴長く太きことによりて内地のものに區別せらる。已にハルテルト氏によりて發表せられしものなり。
34. *Emberiza elegans* Temm. ミヤマホ、ジロ  
臺北博物館に雌一個あり、阿里山にて採集せらる。臺灣島にはホ、ジロの類極めて少し。余は今回一回も見ざりき。内田氏著日本鳥類圖説續篇臺灣之部には三百一種類を記述せらる。上記の卅四種類を之れに追加し多少の變更をなすときは今日にては臺灣産鳥類は三百三十一種類なる。

### 五、余の見たる臺灣鳥類の習性

別項記載の如く菊地氏の十年間に於ける觀察あり今茲に記す程のこまなきも今回余の實見せるものに就て少しく記さんにオウチウは水牛のみならず豚、山羊(家畜)等の背に止りて蠅其他の害蟲を喰ふ。シラサギ、アマサギ等も此事あり云ふも余は不幸にして今回は一度も見ざるを得ざりき。ヒメオウチウは山地の枯枝の高所に上れるに一度出會せしのみ。リウキウハシブトガラスは主として溪流に降れるを見たり魚族を捕ふるならん。西部には非常に少し宜蘭邊には多し云ふ。ヒメ、ジロは非常に多く相思樹、榕樹なきに止れるもの算ふるに困難なる程なり。電線に止る鳥比較的多く前記の如し即ちオウチウを始めし、タカサゴモズ、ミハウチワドリ、シロガシラ、タイワンスズメ、ツバメ、オホコシアカツバメ、テウセンシヨウドウツバメ、カハセミ、ベニバト等之れなり。ホイビイ、ヒメマルハシは其鳴聲甚だ佳にして山野にて早朝又夕刻に鳴く音は内地にて聞かれざるものなり。クロエリヒタキは山地の樹間に棲息し佳聲にて鳴けきも亦淡水川口の堤防内に生ずる樹木の如き處にも來れり。カハビタキは其名の如く山溪の流れの石の上なきに止り居ることありカハガラスの如し又は阿里山の清水の出る場所なきにて

も時々之れを見る。ヤイロテウはバチ／＼鳴き高山に棲息するものにて余は聲を一回聞けり。テツケイも聲を聞きたり。臺灣より持歸りし雌雄は今日猶ほ盛んに鳴きつゝあり(七月)、其聲ウヅラに類するも甚だ鋭く近にては高すぎる感あり。ゴシキドリはコロ／＼／＼ミ繰返して鳴くも容易に形を見せず。山地にては何づれの種類も午前十時頃迄は鳴くも日中は聲も、又形も見ず午後三時頃より再び現はれて鳴き始む、故に採集は午前中ミ夕刻近くなり。

a 繁殖する鳥類に關して

五月二日南投廳魚池にてオウチウを打ちしに地下に落て後産卵せり。臺灣の鳥類の繁殖期も内地ミ大差なきを知れり。即ち四五月の頃より六七月が其期節なり。ヒメ、ジロは北投にて五月廿二日已に巢立ちせる雛を得たり。カムムリチメドリも五月中旬阿里山にて同様の雛を得たり又カハビタキも霧社にて四月末日同様のものを採集せり。ミヤマヒタキやマミハウチワドリの雄のみ採集せられて雌一羽も無かりしは即ち抱卵中なりしならん。キバラハウチワドリの巢及び赤色の卵四個を埔里社にて採集せるこゝ前記の如し。タイワンス、メも臺中、埔里社等にて營巢しいたり、埔里社にては卵あり。シマキンバラも埔里社にて營巢中なりき。ブライエルヅクの幼鳥三羽を得たるも五月初旬なり。カノコバトは埔里社にて梅の木(内地の梅ミ異なる)の低き枝に營巢二卵を抱きいたり。ミカドキジも前記の如く雌には大なる卵を有せり。菊地氏は十一月の始めに二ヶ月大の雛雛に等しき帝雉を得たり故に産卵期は七月なるべし云へり。されど今回のものより見れば猶ほ五月下旬か六月初旬より産み始むる場合もあり得べし。ヤイロテウのバチ／＼を聞くは産卵期に近づきし爲めならん。コサギ、アマサギも此時期に多数群棲して産卵す詳しきこゝは菊地氏の記事を見られたし。近來はコサギを多く捕獲せし爲め其數を減じたり。

b 分布に關して

臺灣産鳥類中最も近似種にして且つ互に棲息地を異にするものあり。シラサギは川邊に多く魚族を食しアマサギは主として畑に降りて昆蟲を食ふ。左に表ミなして少しく記すべし即ち垂直の分布状態を述べ(順序不同)

高山(6000m以上)	山地(1000m以上)	平地
タカサゴカケス	ヒメオウチウ	オウチウ
リウキウハシヅトガラス(少)	ヤナムスメ(5000m迄)	カサ、ギ
	タイワンスナガドリ	
	リウキウハシヅトガラス(多)	リウキウハシヅトカラス(少)
	ヒゴロモ	カウライウグヒス
タイワンスユズカケバト	タイワンスチバト	カノコバト
タイワンスヅアカチバト	キンバト	ベニバト
キンバネホイビイ	ホイビイ	タカサゴモズ
	ベニサンシヨクヒ	シヤモズ
	オニサンシヨクヒ	アカハラ
	タカサゴモズ	タイワンスバメ
タイワンスヅグミ	ニウナイヌバメ	クロヒヨドリ
タカサゴマシロ	クロヒヨドリ	シロガヅラ
		クロエリヒタキ
ミヤマヒタキ	クロエリヒタキ	
	エゾヒタキ	

キクチヒタキ	{	カハヒタキ	{	コムシムヒ
アリサンヒタキ		カハガラス		メボソ
カハヒタキ				タイワンキジ
キクイタダキ	{	サツケイ(多)	{	ミヤマトツケイ
ツアカガラ		チツケイ		チツケイ
ミカドキジ				
サツケイ(少)				
ミヤマトツケイ				

次に水平の分布にありてはシロガシラミクロガシラミが西海岸と東海岸とに分れて分布する如き特殊のものゝ外には垂直の分布の場合程明に述ぶるを得ざるも不完全ながら余の知れるものゝみを表示せば(順序不同)

北 部	中 部	南 部
オウチウ	左 同	左 同
	カサ、ギ	{
		カサ、ギ
		カアレン
シロガシラ	左 同(東海岸ヲ除ク)	左 同(同)
ヒメ、ジロ	左 同	左 同
タイワンズム	左 同	左 同
	{	{
	アササギ	アササギ
	ムラサキサギ	ダイサギ

{	コサギ	左 同
{	アササギ	
	チンコロウ	
	ガラツチウ	

左 同	コウノトリ
	ガラツチウ

右に掲げたるものは甚だ少数に過ぎざるも誤りなきものニ信ず。菊地氏の別項には猶ほ多くの明かなる分布の記事あり。

### 六、採集鳥類の體重比較

今回余等の採集したる鳥類中五十八種類の體重を計りたれば左に記して参考以供せん。

(1)	カイツブリ(三羽)	47.7-60.7
(2)	コサギ(一羽幼期)	85
(3)	アササギ(六羽)	90-115
(4)	ミカドキジ(四羽)	♂:218, ♀:275, ♀:330, ♀:350.
(5)	サンケイ(一羽雌)	250
(6)	ミヤマニッケイ(一羽雄)	83
(7)	ムナグロ(一羽)	34
(8)	メダイチドリ(四羽)	12.5-19.7
(9)	イソシギ(一羽)	14
(10)	トウネン(十二羽)	6.5-9.7
(11)	ヒバリシギ(三羽)	8.5-10.8
(12)	サルハマシギ(三羽)	13.4-15.6
(13)	ウヅラシギ(四羽)	11.5-14.1
(14)	アカエリヒレアシシギ(一羽雄)	8.2
(15)	ツニバト(一羽雄)	14.4
(16)	カノロバト(一羽)	42-45
(17)	カハセミ(一羽)	7.5
(18)	オホフクロウ(一羽)	380
(19)	ゴシキドリ(二羽)	20.5, 21
(20)	タイワンヒバリ(四羽)	7.0-8.2
(21)	ツメナガセキレイ(五羽)	5.0-6.0
(22)	ホイビイ(一羽雄)	17.5

(23) キンバネホイビイ(一羽雌) 19.5  
 (24) ヒメマルハシ(一羽) 11.3  
 (25) メジロチメドリ(五羽) 3.9-1.3  
 (26) ルリテウ(一羽雌) 3.4  
 (27) シマドリ(五羽) 8.9-10.6  
 (28) カンムリチメドリ(六羽) 3.4-3.7  
 (29) ヤブドリ(三羽) 8.3-9.0  
 (30) ニイタカハシブトチメドリ(一羽) ♀1.8; ♀1.8  
 (31) シロガシラ(四羽) 7.5-9.0  
 (32) カヤノボリ(一羽) 10.4; 10.6  
 (33) クロヒヨドリ(五羽) 13.3-15.0  
 (34) ミヤマヒタキ(八羽) 2.7-3.1  
 (35) クロエリヒタキ(一羽) ♀3.6; ♀4.0  
 (36) アリサンヒタキ(四羽) 3.8-4.5  
 (37) オホヨシキリ(一羽) 6.6  
 (38) コムシクヒ(一羽) 3.0  
 (39) メボン(一羽雌) 2.5  
 (40) ハウチワドリ(一羽) 3.5

(41) マミハウチワドリ(六羽) 1.4-2.4  
 (42) キバラハウチワドリ(三羽) 1.0-2.3  
 (43) ツバメ(一羽) 4.0, 4.8  
 (44) オホコシアカツバメ(七羽) 6.5-7.2  
 (45) テウセンシヨウドウツバメ(一羽) 2.9  
 (46) オニサンシヨクヒ(一羽雌) 2.5  
 (47) オウチウ(五羽) 1.4.7-18.4  
 (48) ヒメオウチウ(一羽雄) 9.6; 9.7  
 (49) タカサゴモズ(三羽) 1.5-16.8  
 (50) シマモズ(一羽雄) 10.4  
 (51) ズアカヅラ(羽雌) 1.5  
 (52) シマキンバラ(三羽) 3.4-3.6  
 (53) リウキウハシブトガラス(一羽雄) 1.52  
 (54) カサハキ(一羽雌) 63; 66.5  
 (55) タカサゴカケス(一羽) 27.5; 28.7  
 (56) タイワンチナガドリ(一羽) 23  
 (57) ヒメ、ジロ(五羽) 凡し2.5  
 (58) タイワンスズメ(四羽) 5.3-6.9

# 臺灣産鳥類の習性

菊地米太郎述

今回本會々員臺灣總督府殖産局鳥類採集家菊地米太郎氏の東京せられしを機こし同氏の十餘年間臺灣各地に於て採集し觀察せる習性其他に就て興味ある談話を速記せしめしもの即ち本編なり。臺灣鳥類研究に志す者の参考資料として裨益する所尠からず。信じ前論の附録として掲ぐる事とせり。

(編輯者記)

## 臺灣産鳥類の習性

日本鳥學會々員 菊地米太郎述

ミカドキジ(帝雉) *Calophaps mitata* Grant

本種は臺灣嘉義廳管内阿里山海拔七千五百尺以上一萬尺の間の紅檜林、箭竹又はス、タケの叢生する所に棲息す。阿里山中、眠月、水山、塔山にて之を捕獲す。

明治三十九年十一月、余は塔山に登りて、初めて之を發見し捕獲す。爾來引續き二十餘羽を捕獲せり。拂曉に其の棲息地に至れば山徑に出づるにより之を發見し捕獲することを得べし。

其後英國人採集家グードフェロー氏は十三羽を生擒す内二羽は死す。

同氏は一月より四月迄の間に生蕃を雇入れ艮を以て捕獲し、十一羽は無事に飼育し、聞く所に依れば今倫敦にて之を蕃殖させ居れり云ふ。臺灣及内地に於ても其方法宜しきを得ば必ず多數蕃殖し得べしと思はる。産卵期は余は七月頃ならんと思考す。

大正二年の頃、總督府の植松囑託は四羽を捕獲す。其後美麗なる珍禽なること世に發表せられたる爲に前總督閣下は特に嘉義廳の警務課に命じて、約一ヶ月程生蕃を使用し捕獲に従事せしめられたれども遂に捕獲し得ざりし云ふ。

今回大正五年臺灣共進會に出品の爲め非常に捕獲に勉め稍く二羽を得たりしが、残念なることには注意を怠りし爲に鼠に頭部を喰はれ陳列を見合すこととなりしが、斯る珍禽を出品せざるは遺憾なりとの世評喧しき爲に頭部を匿して之を陳列せり。

サンケイ(山雞) *Gallus swinhoei* (Gould)

サンケイも亦臺灣特有の鳥にして土語は「トルボスト」ニ稱し、熟蕃は山鶏ニ云ふ。

此種の棲息地は臺灣全島の山、海拔三千尺以上七千尺迄の森林中に棲息す。此種の捕獲方法は熟蕃が四月より六月迄の間ナンシツクに南風虫ナンシツクニ稱する蟲（麻の葉、カチの葉、桑の葉を食す）を以て餌とし良にて捕獲す。此鳥は甚だ捕獲し易し。産卵期は五月なり。

タイワンキジ *Plasianus formosanus* Ell.

タイワンキジは南部、東部、宜蘭管内に最も多し、中部大安溪以北は至て少数なり。平地の原野特に甘蔗畑或は茅原に棲息す。恒春地方は森林なる爲め棲息せず。鳴聲はケンケンにあらずケンケンケンニ聞こゆ。土名はチーケイニ稱す、蕃語は無し。

産卵期は四月なり。内地産は全く別種にして外見も相違し朝鮮産ニ極めて近く頸の白輪其他に相違あるのみなり。

テツケイ(竹鶏) *Bambusicola sonoritor* Gould

テツケイは海拔千尺以上四千尺以下の間の原野、竹林、雜木林に棲息し、殆ど全島に分布し土人は足くまり良にて捕獲す狩獵家の最も目的とする鳥なり。産期は不明なり。

ミヤマテツケイ(深山竹鶏) *Arreologia cradigularis* (Sw.)

本種は海拔三千尺以上一萬尺以下の森林の間に棲息す、熟蕃及び土人はアンカテツケイ(紅脚竹鶏)ニ稱す足の赤き意味なり殆ど全島に分布するも其内埔里社附近に尤も多し。其捕獲方法は良にして熟蕃は四五月頃矢張り南風蟲ナンシツクいふ蟲にて之を捕獲す。其鳴き聲佳し。

ウヅラ *Columba japonica* T. & S.

本種は平地の畑及野原に棲息し全島に分布するも最も多きは東部花蓮港管内なり。内地の如く狩獵家に餘り注意せられざるより本種の「渡り」は明に知られず。

ヒメウヅラ *Excalfactoria chinensis* (L.)

本種は西部には至て少数にして東部の花蓮港、宜蘭兩廳管内に多し。

ヒメミフウヅラ *Turnix dussumieri* (L.)

インドミフウヅラ *T. taihoor* (Sykes)

右二種はヒメウヅラニ同様なり。

タイワンオホクヒナ *Fulica formosana* Seeb.

シロハラクヒナ *Anasornis phoenicea* (Forst)

平地の沿の附近、埤圳に少数棲息し分布は全島に普ねし。

セイケイ *Gallicrex cinereus* (Gm.)

セイケイはクヒナ類と同じく南部地方は嘉義廳管内に最も多く、東部及び北部には少数を見る。

バン *Gallinula chloropus* (L.)

オホバン *Fulica atra* L.

クヒナ類と同じ場所に棲息す。

オホバンは平地に居らず臺東の新開園地に多く棲息せり。

シキ、チドリ類

本島の海岸附近の沼、養魚池等に多數來る。タシギ類は十一月より三月頃迄止まるを普通ニす。

ハリラシギ *Gallinago stenura* (Kuhl.)

西部に於ては海拔二三千尺の水田、澤に少数棲息し之に反して東部に於ては花蓮港管内の平地の茅原、沼に多數棲息す。

捕獲時期は何時にても可なり恐らく留鳥なるもの多く或るものは渡鳥なるべし。

ツバメチドリ *Claytonia orientalis* Leach

ツバメチドリは、南部海岸に二三十羽群を爲し畑に下り舞ふ時は恰もツバメの如し。阿緜廳管内の枋寮、枋山の間に最も多く棲息す。

レンカク(蓮角) *Hydrophasianus chinensis* (Scop.)

本種は平地の池、沼に棲息し、臺南附近の池に最も多く、臺北の樹林の沼にも少数を見、又養魚池にも少数を見る。池中の蓮又は菱の葉に上るを以て蓮角の名あり。

カノコバト *Turtur chinensis* (Scop.)

カノコバトは全島の平地、人家附近に棲息し屋根上なきにも來るこゝあり竹藪に巢を營む。臺北にては至て少数なり。

キジバト *Turtur orientalis* (Lath.)

内地にては平地に普通なるも臺灣にては海拔二三千尺の山地に多く棲息し前種に比し少し。

ツニバト *Turtur humilis* (Temm.)

本種は、中部太安溪以南、臺東、東部宜蘭に分布し、竹頭崎、鹿麻山附近には特に多く、カノコバトよりも多し。人家附近の竹に恰も木實の成りし如く群集す。俗にコバトを稱す。

キンバト *Chalophaps indicus* (L.)

本種は、海拔二三千尺の茅原、切畑(山の樹を伐り焼拂ひし跡)に棲息すれども餘り多からず。大概二羽位宛一組となりて棲息するを見る。阿緜廳管内の恒春には特に多し、其色彩非常に美麗なるが爲に土人は良にて捕獲し之を飼養せり。

タイワンジユヅカケバト *Columba pulcherrimilis* Hodgs.

本種は海拔六千尺以上一萬尺の間に棲息し多くの群を爲せり。六千尺以下の地には容易に下り來らず且つ高き樹上に棲むを以て捕獲は非常に困難なり。

ヲナガバト *Macropygia phoca* Mostr.

本種は臺灣にては珍種にして臺東廳管内紅頭嶼以外には棲息せず。海岸にあるバンリウガン及び無花果の實の類を食ふ。

タイワンアラバト *Sphenocercus sororius* Sw.

本種は海拔二三千尺の所なれば殆ど全島に分布す。

タイワンツアカアラバト *Sphenocercus formosus* Sw.

本種は海拔四千尺以上七八千尺の間に多く群を爲して棲息し楠の實が熟する時期には楠に密集す。殆ど全島に分布すれども花蓮港廳の璞石閣附近の山に非常に多し、其多き理由は余の考には楠樹が其處に多き爲ならんかと思はる。

ツ、ドリ *Cuculus saturatus* Hodgs.

ツ、ドリは四月より八九月迄は臺灣の平地、人家附近及び海拔三四千尺迄の間に棲息し殊に四五月の頃は人家の側に來りて鳴く。余の考には産卵の爲に人家附近に他の小禽の巢を探す爲ならんかと思はる。

バンケン(蕃鵲) *Centropus javanicus* Dum.

バンケンは平地の竹藪、甘蔗畑の中に棲息し早朝太陽の出づる頃竹の上に出て鳴くも人を見るや直ちに藪の中に隠る。白晝は餘り其姿を見せざるも日出日没の時に出て鳴く。此鳥は殆ど全島に分布す。

ミヤセウビン *Halcyon coronata* (Lath.)

本種は渡り鳥にて四月に本島へ來り八九月頃去ると思はる。全島の海拔三四千尺の森林に棲息し小魚類を食せざるにより土人は南風蟲を餌とし良にて捕獲す。

メンフクロウ *Syrinx caudata* Tiek.

本種は一二千尺の丘陵に棲息し臺南、嘉義地方に少数を見るも餘り他に之を見ず。

ウチミ、ツク *Ketupa flavipes* (Hodgs.)

本種は海拔五六千尺の所に棲息するも至つて少数なり。濁水の上流の最も峻嶒なる山間の森林にて數羽を見たるに過ぎず。

ヒメフクロウ *Glaucidium parvulum* (Sw.)

本種は海拔四五千尺の密林中最も暗き所に棲息し是亦臺灣にては少数なり。余は阿緜廳甲仙埔支廳打鐵山、埔里社太平頂にて捕獲す。

タイワンカスヒドリ *Caprimulgus monticola* Fr.

本種は平地の藪の芽の叢生せる所に棲息す。其分布は宜蘭、花蓮港、南投、嘉義、臺北等なり。

クロビタヘハリヲツバメ *Chactura caudata multipes* Hodgs.

本種は南投、宜蘭、阿緜の甲仙埔にて見たり。雨模様の際に低く下り來る。南投の土城、水社に多し、川の斷崖地に棲息す。

ゴシキドリ *Cyanops nuchalis* (Gould)

本種は臺灣全島の山林二千三尺より六千尺以内の間に最も多く、鳴き聲はクルクルと聞え、保護色を有して木の葉色の如く青きも其の鳴き聲に依て其居所を知る。日中も鳴けども最も多く鳴くは日出の時と日没前なり。多き鳥なれども保護色ある爲に容易に捕獲し難きも鳥を見れば捕獲し易し。木に止り方は啄木鳥類の如し。

タイワンコゲラ *Ignipicus katensis* (Sw.)

本種は平地の山手の人家附近に非常に多く、高山にては見ず。

タイワンヤマゲラ *Gecinurus tanicola* Gould.

本種は前種と反して平地に見ずして五千尺以上の所に棲息す、内地のアラゲラは平地の林にも棲息す。思ふに季候の關係上内地の季候に均しき所に居るならんかと思はる。

タイワンオホアカゲラ *Dryobates leucotos insularis* (Gould)

前種と同じ、但し本種の方多し。

オホカム、リワシ *Sporornis cheela* (Lath.)

オホカム、リワシは全島に二千尺より四千尺の間に多く棲息す。

ハゲワシ *Vultur monachus* L.

ハゲワシは臺灣にては至て少数にして臺南、臺北の博物館に二羽あるのみ。蕃地には棲息すると思はるれども蕃人の居る爲に未だ捕獲し難し。

雁類

雁の類は、臺灣にて繁殖せざるも、時々對岸より渡り來ると思はる。新竹、臺北、宜蘭廳内に折々少数を見ることあり。

鴨類

鴨の類は十一月頃より本島に渡り來り、全島の森林中の池、平地の沼、池、水社の湖水、南部地方の養魚地に多數來り、二月頃に去る。

ヲシドリ *Fix galericulata* (L.)

本種も鴨に同じ、されど平地には來らずして山中の湖水、森林の谿間の大なる淵の如き所に來る。

クロツラヘラサギ *Platula minor* T. & S.

本種は臺南廳竹港、阿緜廳の養魚池に少数を見ることあり。



コサギ *Herodias garzella* (L.)

五六

本種は二月末よりフィリッピン地方より來り、九月十月に又南に向つて去る。臺灣の各廳中澎湖廳を除く外は多數來りて多きは五六千羽同所に巢を掛け、竹其他相思樹に粗なる巢を造る。産卵期は四月にて五月に鵝を育つ。食物は鱸其他の小魚類なり。白鷺の巢を掛ける場所には五位鷺も一所に營巢す。白鷺は朝出て夕歸り、五位鷺は夕出て朝歸る故に同一の所に巢を掛け互に保護するかの如し。巢の掛け方も同じく卵の色も同じ色なり。

五位鷺は年中臺灣に留まれども白鷺は何千羽の群が來りて巢を掛けて又南へ去る。其内一箇年に大概二三十羽残りて翌年に來る者を待つが如し。余の想像は巢を守るが爲に残るか、或は南へ行き得る力なき不具者を残すか、何れかにありと思ふ然れども尙ほ疑問なり。又各廳の群が北部より漸次南方に向つて去る時、多數の群が阿緬の海岸の養魚池に多く残るこゝあり、是亦此處迄連なり來りて全く南へ行き得る力なき爲に残るかと思はる、余の大正三年五月の調査の結果によれば臺北、臺中、臺南の三廳管内には合計約一萬三千九十九羽を算し、桃園、新竹二廳管内には約四千五百五十羽を認む。

アマサギ (シヤウジャウサギ) *Bubulcus coromandus* (Bodd.)

臺灣にては水牛の脊に止りて蠅杯を捕へ食ふを見る。是は重もにアマサギにして水牛に止れるシラサギは餘り見ぬ様なり。又畑に多く來りて昆蟲を食ふを見る、是も重もにアマサギなり。シラサギは魚類を主として食ふ故畑には至つて少數なり。

アラサギ *Ardea cinerea* L.

ダイサギ *Herodias timoriensis* (Cuv.)

ムラサキサギ *Phojys manillensis* (Meyor)

余は十餘年間臺灣に在りて鳥類の採集に従事したるが、右三種の蕃殖地は不明にして甚だ怪しみ居りしが、今回昨大正四年五月始めて其蕃殖地を發見せり。其地は阿緬廳管内の潮州支廳東約一里の保安林に多數に巢を掛けたるを發見せり、其内アラ

サギが大多數を占む。始めて疑問を解くこゝを得たり。

ヤイロテウ *Ptila nympha* (L&S)

八色鳥は四月の初に來り、海拔三千尺以上七千尺以内の森林に棲息し五月頃産卵す。八色ありて美麗なるを以て此名あり。其鳴き聲はバオバオミ聞の故に土人は此鳥の名をバオバオミ呼ぶ。全島の山に棲息するも殊に埔里社方面に最も多く殆ど山雞と同じ所に居りて昆蟲を餌とし良にて捕獲す。

ホイビイ(白眉) *Trochilopteryx lativannus* (Sw.)

本種は海拔四千尺以下の原野又は人家附近に多數居る鳥にて非常に良き鳴き聲なり故に土人は之を捕獲して全島にて販賣せらる。能く昆蟲を喰う爲に本島にては保護鳥たり。

キンパネホイビイ *Trochilopteryx morrisianum* Grant

本種は海拔六七千尺以上の高山の森林に棲息するも餘り高き木に止らずして恰もミカドキジの棲息する如き箭竹の叢生せる所に棲み下の方を潜りて行く鳥なり是亦平地のホイビイと同じく良き鳴き聲にて鳴く、高山に居る爲に之を捕獲する者なきも若し捕獲して飼養せば非常に面白からんと思ふ。

ヒメマルハシ *Pomatorhinus musicus* Sw.

ホイビイと同じ。

マルハシ *Pomatorhinus erythronemus* Gould

本種はホイビイに反對に二三千尺以上の山地に棲息し、非常に大なる聲にて鳴く。餘り密林には居らず。茅或は葛等の繁茂せる所に棲息す。

チャガシラ *Garrulus ruficeps* Gould

五七

本種は海拔六七千尺以上の檜林中に多く棲息し森林中の笹、雑木の中を渡り行く鳥なり。

タケドリ *Dryonastes pectorhinchus* (Gould)

タケドリは名の如く箭竹の中を非常に早く渡り行く鳥にて大概十羽以内の群れにて竹の中を行く故に此鳥は捕獲に困難なり、海拔六七千尺以上の所に棲息す。

メジロチメドリ *Actippe morrisonia* Sw.

本種は海拔二三千尺以上六七千尺迄の間に非常に多く棲息す。其の鳴き聲の如何に依りて生蕃が狩に出る時吉凶を占ひ鳴き聲悪ければ中止して途中より歸る云ふ。蕃語にてシレットクニ稱す。

ルリテフ *Myiophonus insularis* Gould

本種は名の如く瑠璃色を爲し美麗なる鳥なるも少数にて深山の溪間に棲息す。

ミ、ジロチメドリ *Malactas auricularis* (Sw.)

シマドリ *Actinoptera morrisoniana* Grant

カンムリチメドリ *Yuhina brunneiceps* Grant

アチチメドリ *Hergornis tyrannulus* Sw.

ヤブドリ *Liochilla steeri* Sw.

ハシブトチメドリ *Suthora bulomachus* Sw.

ニイタカハシブトチメドリ *Suthora morrisoniana* Grant

是等の鳥は海拔約六千尺以上一萬尺以下に棲息し此内ミ、ジロチメドリは四千尺迄下るこゝあり。主として四五千尺内外の所にて少数を見る。

シロガシラ *Ptilinopus sinensis formosae* Hartert

本種は平地及二二千尺迄の間に多数棲息す。其の棲息地を、應別にすれば、臺北、宜蘭、桃園、新竹、臺中、南投、嘉義、臺南及び阿猴管内の枋寮支廳管内なる石門迄に及ぶ。其の鳴き聲良き故籠鳥として飼育するもの多し。人家附近の枋寮の實が生ずる時に多数群がり来る。土名にてベタコ(白頭)ニ稱す。

クロガシラ *Ptilinopus latrans* Steyan

クロガシラはシロガシラに反對にて棲息地は、花蓮港、臺東、並びに阿猴管内にては恒春、枋山支廳管内の石門、枋山枋寮間の加録堂迄に及ぶ。石門、加録堂の中間約半里の間はクロガシラとシロガシラと混棲す。然るに石門より五丁、加録堂より五丁以内に行けば黒と白と全然別居し、花蓮港或は臺東にはシロガシラは一羽も見ることを得ず、何故なるか原因不明にて尙ほ研究を要するこゝに思ふ。

クロヒヨドリ *Hypsipetes nigerimus* Gould

本種は海拔三千尺以下の平地に多く全島に分布す。良き聲にて鳴く爲に土人は之を飼養せり、最も臺灣松の實を好む。土名にてアンツォーチウ(紅嘴鳥秋)ニ云ふ。

イシガキヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis stegeneri* Hartert

本種は紅頭嶼、火烧島、宜蘭の龜山島、恒春の東海岸に面したる森林の一部に棲息す。内地のヒヨドリは平地又は人家附近に多く居るも臺灣にては西部又は北部の平地には見るこゝを得ず、前記の鳥々に多数居るを見る、是亦研究を要すべし。

カヤノボリ *Spizias cinereicapillus* Sw.

カヤノボリは海拔二千尺以上六千尺以下の間に棲息し森林の中には居らず茅の叢生する所に多く良き聲にて鳴く故にカヤノボリの稱あり。

クロサンコウテウ *Troglodytes niger* McGregor

本種は紅頭嶼にて今日迄に一羽捕獲せしのみにて全く他には見ず。

リウキウサンコウテウ *T. princeps* Illar Bangs

本種は先年嘉義廳管内にて捕獲す、又埔里社の眉原<sup>マイノ</sup>にても捕獲したるが紅頭嶼の種類とは全く異なるものなり、非常に少数なり。

シヤマヒタキ *Hemichelidon ferruginea* Hodgs.

本種は南投廳霧社支廳管内蕃地立鷹にて大正元年に一羽捕獲し又阿里山にて數羽を捕獲す。

カハヒタキ *Rhyacornis fuliginosa affinis* (Grant)

本種は森林中の溪間に棲息し石の上にて鶴鴿の如く尾を振り動す、平地の川に居らず。全島到處に分布す。

チャバラオホルリ *Cyanus virens* Sw.

ミ、ジロチメドリに同じ。

クロエリヒタキ *Hypothymis azurea* (Bodd.)

本種は全島の三四千尺以下の平地、人家近くに棲息し二八水附近最も多く昆虫を好み食ふ。全島に分布するも群を爲さず。

コシジロヒタキ *Cryptolopha javanica* (Sw.)

ミ、ジロチメドリに同じ。

タイワンツグミ *Turdus alliceps* Sw.

本種は臺灣特有の珍禽にして、其棲息地は海拔五千尺以上七八千尺以内の森林に棲息す。分布は今日迄の所は臺東の巴里衛、新水管、阿緜の甲仙埔、打鐵山、其他阿里山、鸞太山、埔里社の山等に於て見る。地上にて餌を食ひ、人を見るや地上より急

に樹上に飛び揚がるを特徴とす故に採集容易なるも其數少し。

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* (Mull.)

本種は臺灣に多數棲息す、内地にも多數棲息すれども重もに海岸に居りて山又は畑に居るを見ざる様なるが臺灣にては四千尺以下の山奥に居りて畑に出て昆虫を捕食す。故に臺灣にては之を保護する必要あらんかと思はる、全島到處に分布す。

コンヒタキ *Notodula montium* (Sw.)

キクチヒタキ *Tanithia goodfellowi* Grant

アリサンヒタキ *Tanithia johnstoni* Grant

右の三種はミ、ジロチメドリに同じ。

シロクロヒタキ *Microcitta scouleri* (Vigors)

本種は海拔四五千尺以上七八千尺迄の溪間の石上に棲息しかハヒタキの居る所よりも一層上の溪間に居るも非常に少数なり。

オホヨシキリ *Acrocephalus orientalis* (T.&S.)

本種は海拔二三千尺以下の平地に棲息するも内地の如く多からず。

タイワンセツカ *Cisticola volitans* (Sw.)

本種は海拔二三千尺以下の茅原に棲息し其鳴聲ニャーニャー(二回)の。

キクイタヒキ *Regulus regulus japonensis* Blak.

ニイタカキクイタヒキ *Regulus goodfellowi* Grant

本種は七千尺以上一萬尺以内の所に少數棲息す。

マミハウチワドリ *Prinia inornata formosa* Harrington

本種は二三千尺以下の人家附近に棲息し鳴聲甚だ佳なり。

ウグヒス *Horreus cantans* (T. & S.)

内地と同じものも稱すれども今日迄捕獲せざる故不明なり。

タイワンウグヒス *Horreus cantans* (Sw.)

本種は四千尺以下の人家附近に少数棲息し全島に分布す。

ミソサバイ *Troglodytes fuscus* Temm.

内地にては人家附近に棲息すれども、臺灣にては全く趣を異にし海拔六七千尺より一萬尺の高處に少数棲息す。

オホコシアカツバメ *Hirundo daurica striolata* (T. & S.)

本種は内地のコシアカツバメの如く少数ならずして臺灣全島に多数棲息す、コシアカツバメは内地にては徳利燕とも稱して巢を徳利形に造るも、臺灣には巢を見るこ稀れにして余は十餘年間に徳利の如き形に造りたる巢を南投廳管内草鞋墩支廳<sup>ソアト</sup>の或土人の家にて初めて唯一つ見たるのみ、何れに巢を掛けるか今日迄不明なり。

ヒメイワツバメ *Chelidon urbica nigripennis* (Hart.)

本種は海拔三四千尺以上五六千尺の蕃地にて捕獲す、内地にてイワツバメは多数居る様なれども臺灣には他の燕の多数居る割に本種は少数なり。

ベニサンシヨクヒ *Peripocotus griseigularis* Gould

本種三千尺以上六千尺以下の森林中に棲息す、非常に美麗なる紅色に粧飾物にして愛玩せり。

サンシヨクヒ *Peripocotus sberurus* Lafr.

本種は臺灣には少く海拔二三千尺の所に棲息し今日迄捕獲したるは僅に三羽なり、ベニサンシヨクヒの多数なる割に本種は至つて少し、其分布は、嘉義、南投、花蓮港、阿緜の甲仙埔、臺北等なり。

オニサンシヨクヒ *Cranaeolus ver-jiheti* Sw.

本種は海拔四千尺以上七八千尺の間に棲息す、ベニサンシヨクヒの美麗なるに反し、本種は鳥體大にして鼠色なり、故に一見カケスの如く見らる。分布は全島に渉り、其の鳴き聲非常に大なる爲め其居所を知り直ちに捕獲し易しきも他の鳥と異なりて非常に高く止る鳥なり。

オウチウ(鳥秋) *Buchanga atra* (Herm.)

オウチウは全島に分布し多数棲息す、電線に止り或は水牛の脊に止り、蠅或は稻作の蟲を食ふ爲に無期保護鳥なり。本種は餘り森林に居らず全く平地のみに棲息す。

ヒメオウチウ *Chaplia brauniana* Sw.

本種はオウチウに酷似するも平地には全く見るを得ずして海拔三四千尺より七八千尺の間に棲息しオウチウとは全く其場所を異にす。

タカサゴモズ *Lanius schach* L.

本種は全島に分布し電線等に多数止れり。能く昆蟲を捕食する爲め臺灣にては無期保護鳥なり。

シマモズ *Lanius cristatus lucionensis* L.

本種は至つて少数にして其分布は臺南、阿緜、臺東、花蓮港、宜蘭の各廳管内に棲息すれども他には之を見ず。

四十雀の類

本種は海拔五六千尺以上の所に棲息す。平地にては見るこを得ず。

コウライウグヒス(黄鳥) *Oriolus indicus* Jerd.

本種は臺灣中部太安溪を境とし、南部は恒春、臺東、花蓮港、宜蘭、各廳の平地に棲息し北部は新竹、桃園、臺北の各廳管内には棲息せず。平地の人家附近に居りて山地には居らず。

ヒゴロモ *Oriolus ardens* (Sw.)

ヒゴロモはコウライウグヒスに同属なれども、棲息地は反對にして海拔二三千尺以上五六千尺迄の森林に棲息し全島に分布す。其内最も多きは埔里社附近の山地なり、近似種にして其棲息所を全く異にするこは尙ほオウチウミヒメオウチウの場合に似たり。

シマキンバラ *Munia topela* Sw.

本種は全島に涉りて多数棲息し非常に群を爲して稻作に害をなす臺灣にては臺灣雀と稱す。

コシバ、ロキンバラ *Troglodytes acuticauda squamirostris* Sharpe

本種はシマキンバラの多き割には至つて少数なれども棲息の場所に依て又非常に多く南投、嘉義兩廳管内に多し。

タイワンキンバラ *Munia formosana* Sw.

本種は前二種に似たるも臺北、桃園、新竹の三廳には少数にして臺中以南には幾分宛混棲し、東部臺東、花蓮港、宜蘭等には非常に多し。

リウキウハシブトガラス *Corvus macrorhynchos leucilanti* Less.

本種は西部にては平地に見るこを得ず、海拔三四千尺以下の山地の生蕃又は土人の住する所に棲息す。併し宜蘭、花蓮港、臺東各管内に於ては平地に少数棲息す。

タイワンタケガラス *Nucifraga oostoni* Ingram

全島六七千尺以上の森林に棲息しケラ類の如く能く樹木の蟲を捕食す。

カサ、ギ *Pica pica sericea* Gould

本種は臺灣の中部太安溪以南の平地に少数棲息し、人家附近の田畑に於て昆蟲を捕食す、産卵期は四月なり。

臺灣カジマルの樹上に枯枝を積み粗なる巢を造る。其分布は南部地方臺東、花蓮港、宜蘭に棲息するも新竹、桃園臺北には見ず。

ヤマムスメ *Urocissa corvula* Gould

山娘は海拔二千尺以上六千尺以下の間に棲息し全島に分布す、非常に美麗なる鳥にして山娘の名あり。土語にてトンボイチン(長尾姫)と云ふ。性非常に荒く他の小鳥を捕食し又は礫に降り魚を捕へ、又山間の蛙や蟹を捕食す。

タイワンテナガドリ *Dendrocitta formosa* Sw.

本種は海拔二千尺以上三四千尺迄の間に棲息す、全島に分布し畑の昆蟲を捕食す。

タカサゴカケス *Garrulus latiramus* Sw.

本種は海拔六七千尺以上一萬尺迄の間に棲息し全島に分布す。

カアレン(加令) *Aethya cristatella formosana* Hartert

本種は新竹廳以南、恒春より臺東、花蓮港、宜蘭の平地に棲息す。能く馴せば人眞似を爲し愛玩せらる、南部地方にては人家附近に居る鳥なり、新竹廳の或部分の北、桃園、臺北各廳管内に棲息せず、然るに今日は臺北附近に少数を見る様になりしは思ふに飼鳥を放ちてそれが一所に集りしならん。

ムクドリ *Spodiopsar cinereus* (Temm.)

本種は臺北、桃園、臺南、阿緞、花蓮港、宜蘭に棲息す。

ヒメ、ジロ *Zosterops palpebrosa simplex* Sw.  
本種は全島平地の何れの地にも棲息す。

キクチメジロ *Zosterops palpebrosa butanica* McGr.  
臺東より八十哩南なる紅頭嶼に限り棲息す。

ハナドリ *Dicaeum formosum* Grant  
ハナドリは臺灣鳥類中最小の鳥にて蕃地の萬大社の奥に少數棲息するも非常に珍禽なり。

タカサゴミンコ *Carpodacus formosanus* Grant  
タカサゴウソ *Pyrrhula orientalis* R.&H.

アリサンウン *Pyrrhula arizonica* Grant  
右の種類は海拔六七千尺の所に棲息し極めて少數なり。

ニウナイス、メ *Passer rutilans* (Temm.)  
本種は平地の雀に反して二三千尺以上六千尺の間の切畑、枯古木等に少數棲息す、雀に同じ様なれども少しく色を異にす。

ホ、ジロ *Emberiza cioides ciopsis* Bp.  
ホ、アカ *Emberiza juvata* Pall.

右の二種は内地には多數棲息すれども臺灣には至つて少く平地には餘り居らずして少しく山の茅原に少數を見るのみ。

### 日本鳥學會臨時刊行物目錄

獸醫學士 内田清之助著  
第一篇、鴝類圖說 賣切レ

獸醫學士 内田清之助著  
第二篇、海産保護鳥類圖說  
原色版三枚 附錢  
定價四拾

理學士 黒田長禮著  
第三篇、世界の鴝  
原色版五枚 附錢  
定價七十五

理學士 黒田長禮著  
第四篇、世界の雁と鴝  
原色版四枚 附錢  
定價五十二

仁部富之助著  
第五篇、郭公の蕃殖に關する研究  
コロタイプ版一枚  
地圖挿畫數五  
定價眞價四錢  
寫眞價五錢  
郵税八錢

賣捌所 神田區表神保町 東京堂  
日本橋區二丁目 裳華房

大正五年十月廿六日印刷  
大正五年十月廿九日發行  
定價金四拾錢

### 不許複製

著作者 黒田長禮  
發行者 木下憲  
印刷人 神谷岩次郎  
東京市日本橋區兜町二番地  
東京市日本橋區兜町二番地  
印刷所 東京印刷株式會社

發行所 東京理科大学 動物學教室内 日本鳥學會  
振替口座東京六五九九番

發賣所 東京神田區表神保町 東京堂書店  
東京日本橋區通二丁目 裳華房

# 日本鳥學會規則

- 第一條 本會ハ日本鳥學會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教室ニ置ク
- 第三條 本會ノ目的左ノ如シ  
 一鳥類ニ趣味ヲ有スルモノ、懇親ヲ計ルコト  
 一鳥類ニ關スル學術ノ進歩ヲ促スコト  
 一鳥類愛護ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護増殖ヲ計ルコト
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ評議會ノ決議ヲ經テ隨時種々ノ事業ヲナス  
 一當分一年ニ二回雜誌「鳥」ヲ出版スルコト  
 一臨時出版物ヲ刊行スルコト  
 一毎年春秋二回會合シ鳥類ニ關スル講演談話ヲナシ同時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他ノ展覽會ヲ催ス  
 一鳥學の探檢ヲ舉行スルコト
- 第五條 本會々員ヲ分チテ甲種會員ト乙種會員ノ二トス  
 一甲種會員ハ會費トシテ一ヶ年金貳圓四拾錢ヲ納ムルコト  
 一乙種會員ハ會費トシテ一ヶ年金壹圓貳拾錢ヲ納ムルコト
- 第六條 甲種會員ニハ雜誌「鳥」臨時出版物及ビ動物學雜誌ニ掲

載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス  
 乙種會員ニハ雜誌「鳥」及ビ動物學雜誌ニ掲載セル鳥類ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、臨時出版物ハ定價一圓ヲ限リ無代配布ス其他ハ定價ノ三割引ヲ以テ講讀スルヲ得

第七條 本會ニ入會セント欲スルモノハ住所氏名職業ヲ記載シ本會ニ申込ムヘシ但甲種會員ノ入、退會ハ評議會ノ決議ニヨル

第八條 本會ニ會頭壹名幹事壹名ヲ置ク

第九條 本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員ノ互撰ニヨル評議員若干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

東京理科大學動物學教室内

## 日本鳥學會

役員	
會頭	飯島魁
幹事	内田清之助
評議員	飯塚啓
	丘淺次郎
	鷹司信輔
	波江元吉
	黑田長禮
	松平頼孝
	子爵

327  
792

終

